

伯友

87

2025.10

特別企画インタビュー

箱根駅伝初出場・79期秋吉拓真君

箱根駅伝出場までの道のりと今後の目標



現役生企画

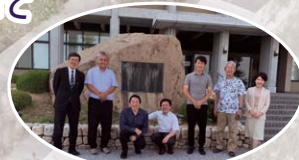
六甲学院現役生
指導員インタビュー

指導員を通して感じたこと



先生を訪ねて 六甲学院海外研修について

山岸 禎一先生、石崎 裕二先生
西尾 由子先生、鈴木 史歩先生



ご存じでしたか

六甲伯友会のホームページ

<https://www.hakuyu.jp/>



誌面の都合で会誌「伯友」に掲載できなかった記事も含まれています。
是非アクセスして閲覧してください。

コンテンツ内容

(2025年10月現在)

●六甲伯友会

- 六甲伯友会とは
- 六甲伯友会会則
- プライバシーポリシー
- 六甲伯友会のあゆみ
- 六甲伯友会役員
- 会長挨拶
- 伯友[春号・秋号]
- ROKKOCHANNEL
- YouTubeの紹介
- 伯友会費・伯友基金
- 伯友奨学基金
- 青春時代の想い出
- 校歌(合唱)
- 六甲学院讃歌(合唱)
- 六年の春秋(合唱)
- 六甲卒業生同窓の歌「伯母野の友よ」
- 伯友会歴史資料集
- 学校20周年創立記念写真集
- 校誌「六甲」(1号～56号)
- 六甲歌集(vol.1～vol.5)
- 六甲文芸
- 文化祭プログラム
- 柊
- 体育祭プログラム

恩師・回想・追悼等

Therock六甲伯友会発行の冊子
会報誌「伯友」
〈No.1(1968年発行)～No.86(2025年発行)〉

リンク集

- 各期同期会
- クラブOB会
- 六甲学院・兄弟校関連
- 姉妹校同窓会
- 会員個人開設のHP

●ニュース・告知

- ニュース
- ピックアップニュース
- OB講演会
- PR広場

●投稿記事

- 同期会だより
- クラブOB会・同好会
- 寄稿・紀行・聴こう
- 支部だより

●問い合わせ

- 問い合わせ
- 住所変更等届け
- 投稿用
- 秋号送付に関して
- クラシファイド広告用

ホームページに掲載ご希望の方は原稿と写真等のデータを下記宛てにお送りください。

office@hakuyu.jp



X (旧Twitter) もあわせてご覧下さい。

フォローもお願いします。

六甲伯友会

https://twitter.com/rokko_hakuyu



六甲学院 公式「くま先輩の日誌」

https://twitter.com/rokko_hakuyu



目 次

□巻 頭 言	東郷直樹 (37)	1
□2026年度 六甲伯友会 懇親会の案内		2
□＜特別企画＞ 箱根駅伝初出場・79期秋吉拓真君インタビュー		3
□会務報告		
第1号議案 2024年度事業報告		8
第2号議案 2024年度収支決算報告		9
第3号議案 伯友基金の廃止について		10
第4号議案 役員改選について		10
第5号議案 2025年度事業計画		10
第6号議案 2025年度収支予算		11
□六甲伯友会活動関連		
2025年度伯友会総会・懇親会	石原隆行 (57)	12
2025年度関東支部懇親会	武田義史 (57)	13
関東支部 2025年度上期報告	川原弘行 (50)	14
「六甲フェローシップ」のご紹介	五百旗頭薫 (49)	14
□栗本昭夫神父様訃報		15
□＜現役生企画＞ 六甲学院現役生指導員インタビュー		16
□先生を訪ねて「山岸先生・石崎先生・西尾先生・鈴木先生」		20
□OB職場訪問		24
□OB講演会		
『絶えざる好奇心と勇気を！』35期 上野真吾氏	山岸禎一 (40)	25
『世界の医療現場で感じていること』36期 森川雅浩氏	石崎裕二 (48)	26
□メディア＜六甲学院 TV放送・YouTube＞		26
□同期会		27
13期、14期、17期、34期		
□クラブOB会		30
体操部、陸上競技部		
□トピックス		
第9回伯歯会懇親会報告	高端泰伸 (33)	31
六甲学院29期 元海上保安庁長官 北村隆志氏 瑞宝重光章受章	藤井則雄 (29)	31
2025年度 第1回伯友会ジュニア報告	田崎朋広 (51)	31
「作曲家本田周司プロジェクト（仮）」について	藤原唯人 (50)	32
□六甲未来つばさ募金		33
□書籍紹介		
ニュースタダード整形外科の臨床 全11巻 第1巻『整形外科の病態と診察・診断』	井尻慎一郎 (32)	34
『整形外科医のカラダの痛み相談室』	井尻慎一郎 (32)	34
『わたしを誰と呼ぶかマルコの福音書Ⅱ』	大頭眞一 (36)	34
『「同性愛」二つの見解』	大頭眞一 (36)	34
『時が満ちてーマルコの福音書Ⅰ』	大頭眞一 (36)	34
□編集後記		35
□会員の皆様へ		36

巻頭言

伝統を守るための革新を

六甲伯友会副会長

37期 東郷直樹



今年は昭和で言うと100年、終戦後80年、そして阪神淡路大震災からも30年と、何かと節目の年で歴史を振り返る機会が多くありました。

去る5月10日に57期生が入念に準備を重ねてくれた伯友会総会がポートピアホテルで開催され、私も参加させていただきました。その中の特別企画で1期生の大先輩のビデオメッセージが披露されました。1期生とえば、多くの方が昭和元年生まれの御年100歳という事になります。「あのころは口頭試問だけ、受けたら通ってもうた」とユーモアたっぷりにハッキリとお話しになる先輩の映像に、新卒業生である82期まで各世代の参加者が釘付けになると共に、背筋が伸びる思いだった事と思います。

また、6月7日には第84回体育祭にも顔を出し、総行進を見せていただきました。5月の総会でも「体育祭の歴史」のパネル展示があって、その伝統に改めて感銘を受けましたが、実際に体育祭の会場に身を置き、現役の生徒達の掛け声と共に音楽部の行進曲の演奏が始まると、一気に当時の記憶が蘇り、何だか胸が熱くなる感覚・・・本当に不思議なものです。

さて、このように六甲学院には長きにわたる歴史と伝統がありますが、「伝統を途絶えさせないためには革新が必要である」と良く言われます。先日、京都の伝統工芸の関係者からお話を伺いましたが、作品を創る職人も時代に合

わせた新しいアイデアや物作りを常に模索しているとの事でした。多様性を認める社会の流れを受け、総行進も数年前から着衣列を導入するなど、学校や生徒の皆さんも伝統を守っていくために「変えてはならないものと変えなければならないもの」の見極めに常時向き合っているように思います。伯友会からも、「伝統を守るための革新」には大いにエールを送り協力をしていければと思います。



学校と伯友会との共同での革新的な取り組みとしては、「六甲フェロウシップ」という制度が、49期の五百旗頭副会長をリーダーとしたチームが主導する形で6月にスタートしました。意欲的な高校生が取り組みたい研究テーマに対して、伯友会の専門家が進め方などのサポートをして一定の研究成果に仕上げようとするもので、現在3テーマが進行中です。果たしてどんな成果物が生まれるか？大いに楽しみなところですよ。

私は5月の総会で伯友会副会長の1人に選任頂きました。今後、皆様のお力添えを頂きながら六甲学院の歴史と伝統を大切にしつつ、それを守っていくためにも新たな風も取り入れて、微力ながらも母校の発展のお手伝いをさせていただく所存です。また様々な活動を通して伯友会会員の同士の親睦をより深めていける雰囲気を作っていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



体育祭



2026 年度 六甲伯友会 懇親会の案内

2026年

六甲伯友会 懇親会

2026 年 5 月 9 日 (土) 16:30-18:30

場所：神戸ポートピアホテル

今回は、58期が懇親会の準備を担当します。

企画については現在検討中です。

久しぶりに旧友・恩師と語り合い、

懐かしい時間を一緒に過ごしませんか？

皆さまとお会いできるのを楽しみにしています。

(代表：清水)

2026年度 懇親会準備メンバー

清水、井上(祐)、杉浦、田中(仁)、滝川、千頭、中田、西村(紘)

特別企画

箱根駅伝初出場・79期秋吉拓真君インタビュー

箱根駅伝出場までの道のりと今後の目標

六甲学院のグラウンドから箱根路へ――。

79期秋吉拓真君は、2025年1月箱根駅伝の舞台に立ちました。
東京大学工学部機械工学科に所属する現役学生でありながら、
陸上競技部に所属し、日々の厳しい練習を乗り越えてきた秋吉君。
このインタビューでは、彼の六甲時代の思い出から大学での生活、
そして未来への展望までをたっぷり語ってもらいました。

日 時：2025年7月19日（土）11：00～11：50

場 所：東京大学駒場キャンパス内

インタビュアー：広報委員会 宇都宮（20期）・
藤枝（50期）・柴原（74期）



今年の箱根駅伝出場を果たした秋吉拓真君

自己紹介

藤枝：まず初めに、所属学部、所属学科、クラブの正式な名称、大学以外に所属している団体などを教えてください。

秋吉君：東京大学で、入学は理科Ⅰ類、今は工学部の機械情報工学科に所属、部活は陸上運動部に所属しています。箱根駅伝の際には、関東学生連合というチームに所属していました。

藤枝：それはその時だけ？

秋吉君：箱根駅伝の予選会があるんですけど、チームとして突破できなかった選手たちの中で、成績が上位の選手がその年の箱根に、学生連合というひとつのチームを作って出場することができます。2、3ヶ月間の間だけのチームって感じではあるんですけど。

藤枝：なるほどわかりました。プライベートなことですけど、通学時間はどうですかね。

秋吉君：普段授業を受けてる本郷キャンパスには自転車で

20分ぐらいの距離です。駒場キャンパスはもう少し時間がかかるんですけど、電車使って40分から50分ぐらいです。実は父親と二人暮らしをしていて。父親が単身赴任でこっちに来ていて、たまたま自分も大学でこっちに来てるので、二人で暮らしてるんです。自分の大学へ行く時期と父親の単身赴任の時期がかぶってていうところで。

藤枝：ところでご出身は？

秋吉君：千葉県出身で、幼稚園の時までは千葉にいたんですけど、父親の仕事の関係で小学校入学のタイミングで兵庫の方に引っ越してきてっていう形で、それから西宮に住んでいました。

藤枝：六甲に入ったのは何か理由あるのかな？

秋吉君：実は自分、B日程で入ってしまして、A日程は甲陽学院を受験して落ちちゃってるんですけど。中学受験するってずっとと思ってたわけではなくて、小学5年生から少し学校の勉強プラスっていうところで、親に勧められて塾に行き始めて。小学校6年生になったぐらいで中学受験してみたっていう風に先生に勧められて受験することにしたんです。

幼稚園年長の5歳ぐらいからサッカーをしていて、甲陽学院がちょっと強いみたいな話を聞いたので受験しました。

藤枝：陸上は小学校でやってなかったの？

秋吉君：学校のマラソン大会とかは、そこそこ走れたっていうのはあったんですけど。

藤枝：そこそこでも1位じゃないの？

秋吉君：1位になったのは実は1回だけ。2位か3位かみたいなところで。

藤枝：意外やね。小学校の時はぶっちぎりなんかなかと思ってた。

中1から陸上部入った？



東京大学駒場キャンパス正面前

秋吉君：中学の時はサッカー部に。サッカー部の時はミッドフィルダーで、ボランチとか。

藤枝：そうなんやね。一番走らなあかんもんね。陸上って距離が色々あるじゃないですか。多分、短距離も早いと思うんだけど、1番得意なのは何メートルなの？

秋吉君：短距離は全然苦手。ただ、長距離でも自分の中でもどれが得意なのかな、最近わかんないところあるんですけど、5キロ以上の距離だったら、結構どれも満遍なく走れるかな。今は5キロ、10キロとかハーフマラソンを走りますけど。

藤枝：フルマラソンは？

秋吉君：フルマラソンは1回も走ったことがないです。機会があればどこかで走りたいなと思ってんですけど。

藤枝：最初の強歩会は中1の冬かな？

秋吉君：中1の時はグリーンピア三木が使えなくなって、中止になったんですよ。なので中学1年生の時は走れなくて。

藤枝：そうか。中1が中止になって走れずで、中2の競歩会が最初で。

秋吉君：中2で優勝しました。

宇都宮：そしたら君はその先も優勝するんじゃない？5連勝じゃないよね？

秋吉君：高2の最後の強歩会の時がコロナで中止になって、結局3回しか走らなくて。

宇都宮：5連覇した人はまた別にいるんですね。

秋吉君：69期細澤先輩です。自分が入った時には、講堂のところに記念写真みたいなのがあって、すごい先輩いるんだなって思っていたんで。

藤枝：5連覇は凄いね。

話をプライベートに戻すけど、アルバイトとかどうしてるのかな。

秋吉君：アルバイトは在宅で出来るような模試の採点みたいなことをやってるんですけど、部活とか、土日試合が入ったり、変則的なスケジュールもあるんで、空き時間に出来るバイトがいいなっていうのがあって、もうずっとそのバイトやってる感じです。

藤枝：部活は大体何時ぐらいからですか。

秋吉君：週3回、火曜と木曜日と土曜日に部活があります。平日は大体17時からスタートっていう形で19時半ぐらいまでやってます。

藤枝：2時間半ぐらい、土曜日は。

秋吉君：土曜日は10時から始まってって12時半とかまでやって、みたいな形です。

藤枝：陸上だとそんなに長いこと出来ないしね。火曜日と木曜日以外の夜はどういう過ごし方なのかな。

秋吉君：部活で練習するのは週3日なんですけど、毎日トレーニングはしています。本郷キャンパスの周りとか、家の周りとかを授業終わったら毎日20キロぐらいを目安に走っています。

藤枝：すごいね。ずっと箱根走ってるみたいなもんやね。部活の時もそのぐらい走るの？

秋吉君：そうですね、トータルの距離が20キロぐらいです。

藤枝：それ以上走ると乳酸が溜まったり、何かあるのかな。

秋吉君：そうです。やっぱり疲労がどうしてもやっぱ溜まっちゃって、練習の質が落ちちゃうところがあって、試合前とかは距離を落としたり、逆に試合があんまり無ければ、1日の距離を25キロとか走ったりするんですけど、今の自分は限界的には25キロぐらいがちょうどいいラインかなと。それ以上走っちゃうと、すごい疲労が溜まって怪我とかにも繋がっちゃうので。

藤枝：筋トレとかは、というのが効果的だとかあるの。

秋吉君：多分、箱根に出てる他の大学とか、大学によっては筋トレとかすごいやってるとこもあるのかもしれないんですけど、自分は全くやらなくて。長距離だとそこまで重要になってこないかなっていうところもあるんで、基本的に走るのと、軽く体幹トレーニングとか、自重の腕立てとか腹筋ぐらいを少しやってるっていう感じです。

藤枝：意識的にきつい坂を走ったりとか、そういうのはあるの。

秋吉君：六甲時代は坂がいっぱいあるんで、そこを使ってトレーニングしてたんですけど、この辺りはあまり坂がないんで、坂を使ったトレーニングは最近ほとんどしていません。合宿行くとしたりするんですけど。

藤枝：やっぱり効果的なのかな、坂のトレーニングは。

秋吉君：そうですね、坂だとスピードを出さなくても結構負荷がかけられるのでうまく使うと効果的なのかなと思うんですけど。

藤枝：あんまり重要じゃないみたいね、そこは。

秋吉君：そうですね。重要ではないというか、他の練習でも補うことはできるかなっていう。

藤枝：膝とか負担かかるじゃないですか。そういうのは大丈夫なのかな。

秋吉君：走っていて負担がかかってないことはないと思うんで、そこも含めてバランスを取るというか、負担がかかりすぎないところで練習をやめたり、自分はそこまですごい意識的にやってるわけじゃないんですけど、フォームと



食堂でインタビュー



どんな質問にも色々と答えてくれる秋吉君

かでもかかってくる負担が変わってくると思うんで、あんまり変な走り方にならないようにするとか、そういうところは大事なかなって思います。

藤枝：日頃から他の人のそういうフォームの研究とかも結構してるのかな。

秋吉君：フォームとか気にしてすごいやってる人とかいます。自分は感覚を大事にしてるところはあるんですけど。

藤枝：どういう感覚が一番自分にとっていいとかあるのかな。

秋吉君：逆の話になっちゃうかもしれないんですけど、何も考えずに気持ちよく走れるみたいなのを結構大事にしていって、ちょっと言葉に表すのは難しいんですけども。走ってたら自然と意識が飛んでいくような何も考えないで体の動くままに動くのが最適化された動きなのかなっていうのは思ってます。

日常生活

藤枝：学業と陸上の両立ってというのは、意識してることはありますか。

秋吉君：自分はどちらかの言い訳をしたくないなっていうのはあって、文武両道するためになんかしてるっていう意識は全然なくて、勉強の時間があって、残りの時間の間に陸上の練習をしっかり入れて、その上で睡眠時間、食事をしっかり取るっていうことは意識しています。

藤枝：食事、睡眠ね。睡眠時間は何時間ぐらいとってますか。

秋吉君：忙しい時期もあって、思うように取れない時もあるんですけど、8時間取りたいなっていうのがあって。どんなに忙しくても、少なくとも7時間は取るようにしています。

藤枝：あと、食事やね。アスリートの食事って、結構スタミナもいるし、筋力も使うし、脂肪も使う。どんな食事を心がけてるのかな。

秋吉君：細かく考えてるとかはないんですけど、バランス良くというか、食費はありがたいことに親が削って欲しくないというのでしっかり出してくれてるので。

藤枝：タンパク質とかだったら、夜、お肉も200グラム以上しっかり食べるとか。

秋吉君：そうですね。野菜とかは、感覚的にバランス良さを意識して食べていますね。

藤枝：料理は自分で作るのかな。

秋吉君：今は自分で作ったりもしています。

藤枝：お父さんにも作ってもらったり。

秋吉君：土日は父親が作ってくれて。平日は父親の方が少し帰ってくるの遅いんで、自分でも作る日もありますし、ちょっと残ってるもん食べたりみたいな時もあるんですけど。

藤枝：陸上選手ならではの料理とか何かあるのかな。肉は食べるとして、野菜をとって、例えば白米は多くとるとかあるのかな。

秋吉君：そうですね、自分が少し意識してるのはしっかり回復させる、体重が増えないように消費した分だけを食べるってところで、しっかり練習した日にはそれなりに意識的に多く食べてとか、逆にあんまり動かなかった日は少し量を減らしたりだとか、調整したりしてやってますね。

藤枝：外食は控えてるとか、そういうのはありますか。

秋吉君：あんまり意識はしてないんですけど、特に制限してるとかはないんですが普段の生活では、そんなに外食することは無いです。

ただ、部活とかでたまにイベントがあったら、打ち上げとか全然しますし。部活帰り遅くなった時にちょっとどこかへ寄ってみんなで食べるとかそんな感じですね。

藤枝：遠征とか行くとどうしても外食になりがちだね、

秋吉君：そうですね。

藤枝：お酒はどうなの。

秋吉君：特に一滴も飲まないみたいなことをやっているわけではないんですけど、そんなに飲まないです。

打ち上げの時には飲むんですけど、常にすごい飲んでるってわけではないですね。

藤枝：やっぱりすごいね。もう全部タイムスケジュールがビチッと詰まってて、その隙間の遊びの時間とかあるの。

秋吉君：全然それはありますし、土日とかも陸上試合行ったりして、そこでみんなでわいわい楽しくやってるのが遊びみたいなのところも部活動自体が遊びとかもあるんで。

藤枝：仲間がいてね、それが楽しいよね。



六甲学院について

藤枝：文化祭があったり、体育祭があったりとか、そういうところで役員をやってたとか、そういう話ありますか。

秋吉君：まず、指導員をやりました。

それと文化祭は企画主任をやっていて、体育祭は、先頭役員をやりました。

藤枝：全部やってる。

秋吉君：やりたがりなんで。

藤枝：すごいね。先頭は一番大変だなんて。指導員のインタビューの時先頭役員の人が言っていました。年々図形が複雑化してて大変だよね、先頭歩くの。指導員だから中1の子らのお手本になりながらとか、やってたんだね。

便番とか、中間体操とかあるけど、何か思い出深いこととかありますか。中間体操とか、訓育生の先輩とかいたと思うんだけど。

秋吉君：入学して、最初の掃除っていうのは、結構衝撃を受けました。雑巾とか、1年生の力で絞ったのを、さらにぐって絞って、まだ出るぞみたいな感じで。

当時は大変だなんて思ったりもしたんですけど、それも含めて六甲での思い出は全部いい思い出だなんていう風に今はすごく思っていて。たまに怖い先輩とかに当たったりもしましたが、同級生と共有して、色々わいわいやったのが、全部、些細なことでもすごく楽しかったなっていうのはありますね。

藤枝：うん、なるほどね。海外研修とかは行きましたか。

秋吉君：一応ニューヨーク研修に行くメンバーにはなったんですけど、コロナで中止になっちゃって。

高1の3学期の終わりぐらいからポツポツ出始めて、高2の頭で緊急事態宣言っていうことで、高1の終わりの春休みにニューヨーク行くはずだったんですけど。波が来るのがアメリカの方がちょっと早かったんで、行けなくなって。インドの方も自分たちの学年は行けずっていうので。

藤枝：なら海外は高校では行けず、大学では大会とかで。

秋吉君：部活とかでは行ってないんですけど、去年プライベートで行きました。アメリカに遊びに行って、六甲の友達と行ったんですけど。ドジャース戦とかを見て。ロサンゼルスとかサンフランシスコに。

藤枝：なるほど、いいね。そのうち海外遠征とか、海外の大会とか。

秋吉君：そうですね、いつか出てみたいです。

藤枝：OBはみんな応援するよ。

将来の夢について

藤枝：将来の夢というか、東京大学機械情報工学科で、自分の目指す自分の道っていうのもあるだろうし、一方でアスリートでの道っていうのもあるだろうし、どういう風に自分の将来を、ビジョンを持っていますか。



秋吉君：まだビシッと、自分の行きたい道が決まりきってるっていうのがないんですけど、とりあえずあと2年間、大学院に行こうと思っているので。工学部の機械系っていうところで、ものづくりっていうところを題材にしてる学科ではあるので、将来形あるものを作るような仕事ができたらなっていう風には昔からずっと思ってるんですけど、具体的に定まっていないう感じがです。

藤枝：アスリートとしてはこういう風にやっていきたいというのはありますか。

秋吉君：大学に入った時は箱根駅伝っていうすごく具体的な目標があったんですけど、今そこに出ることができて、それはすごく良かったんですけど、これからは、その一個のすごい具体的な目標というよりも、自分の限界を知りたいなっていう気持ちがあって。またそれが今からちょっとしか伸びないところやもっと上のところにあったとしても、少しでもその行けるところっていう気で、少しでも速くなりたいなっていう気持ちはあって。自分が自分でもう限界だなんて思うところまでは、やってみたいっていう風には思ってます。

藤枝：プロの言葉やね、ボクサーの井上尚弥さんとかも言ってたね。タイトルも取り尽くしてて、なんか自分の限界まで行きたいみたいな、そういう域でやってるよね。

広報委員より

宇都宮：歳とってからの趣味でやってる人がいっぱいいるでしょ。あなたはそういうのはやろうとは思うかな。

秋吉君：そうですね。今はあんまり考えていません。速く走るっていう面では、多分30歳ぐらいでピークが来ちゃうと思うんですけど、とりあえずそこまではその記録を追い求める走りというか、競技力を高めていく走りをしたいなと思っています。

そのあと長く続けて、趣味として走り続けていくかについては、またその時になってから考えようっていう感じです。

宇都宮：それともう一つは、噂では箱根駅伝に出るために東大入ったって聞いたんだけど、それは本当かな。

秋吉君：そうですね。それが全てではないっていうのはあるんですけど。やっぱり箱根駅伝って、関東の大学しか出場資格がないんで、関東の大学に行かないと走れないっていうのがあり、東大に入りたいという思いがあったので箱根駅伝に出たいという気持ちとの両立には東大以外ないなっていう風に。高3の時の3者面談では、箱根駅伝にも走りたいんで東大志望しますっていう風に担任の先生に言ったんです。

藤枝：東大で箱根駅伝に出るって、そんなにいないんじゃないの。

秋吉君：過去に個人で同じ学生連合で出たのは3人、50年前ぐらいにチームで1回だけ出たことあるんですけど、それだけです。

藤枝：箱根だったら、常連出場の大学じゃなくて、東大行って箱根に行くっていう、それがまた壮大な狭き門にかけるといえるかな。ものづくりと一緒になればいいんだけど。両方活かせたらいいよね、アスリートも。

秋吉君：本当にスポーツにはずっとお世話になってきたというか、自分の人生の本当に大きな部分占めてると思うんで、そこにも何かしら自分の力になれることが将来あればいいなとは思ってるんですけど。

藤枝：是非いつか見つけて欲しいですね。自分のいろんな才能があって、でも努力して伸ばしたその開花したものがあって、それを生かせる、自分にしかない道っていうのかな。道が違えば自分の力が発揮できなかったり、僕もしたことがあって。また戻ってきたりしたんだけど。是非そういう自分に一番合った道を見つけて活躍して欲しいと思います。ありがとうございます。

秋吉君：はい、ありがとうございます。

柴原：早稲田大の工藤慎作選手って知ってますか、この間勝った。

秋吉君：六大学対校戦っていう、東京六大学野球と同じ枠組みの試合があるんですけど、そこで5000メートルを一緒に走って、優勝しました。1回だけなんですけど。

柴原：いやいや、陸上界の山の名探偵と言われていた工藤選手に勝つ実力ってすごい。陸上界の中で評判になってるので、ちょっと聞いてみたかったの。知ってたんだね、工藤選手。

秋吉君：そうですね。ほんとに箱根駅伝では大活躍されている選手で、山登りの5区です。

長い距離じゃちょっと叶わないんですけど、5000メートルではなんとか勝つことができたんで、すごい良かったです。

藤枝：早稲田っていう道もあるやんか。チームで出ていて、勉強もすごくやってるっていう、そこはなかったの。

秋吉君：正直な話をする、中学受験で一回失敗しちゃってすごい悔しかった思い出があったんですけど、その時に母親が僕を慰めるために軽く言っただけだと思うんですけど、大学受験で、東京大学に行けばいいからと。

藤枝：本当に行くのがすごいよね。

秋吉君：それが頭に残っていて、東京大学行きたいっていうのが先にあったんで、東京大学に行ったら、箱根駅伝も走るチャンスがあるので、そこからあんまり変える理由がなかった。自分は性格的に一回決めたら思い込みじゃうというのがあったんですね。

宇都宮：そもそも箱根駅伝を目指したのはいつ頃かな。

秋吉君：高校生で陸上を始めて、全然今考えたらそんな大した実績とか残していないんですけど、記録がどんどん伸びていって、このまま伸びていたら箱根駅伝走れるかもしれないって、脳天気だったからこそだんだんと思い始めて、そしたらまたその思い込みで走りたい、やるぞっていう気持ちになってっていうところがあって。

藤枝：そのまま入ったんだろうね、なるほどね。

では、ちょっとトラックで、一緒に走りたいんだけど。

秋吉君：そうですね、はい。

その後東京大学の陸上トラックで一緒に走らせて頂くことになりました。凄まじい距離を開けられていったのは言うまでもありません。意外にも柴原君は付いていってました。。

灼熱の太陽の下でしたが、トラックで一緒に走れたことはこの上ない思い出であります。

その様子は下記Youtubeで視聴できます。こちら是非ご覧ください。

<https://www.hakuyu.jp/archives/3513/>



どこまでも爽やかな好青年の秋吉君でした。

秋吉君、このような貴重な機会をいただき感謝いたします。ありがとうございました。これからもご活躍を応援しています。

箱根駅伝2回目出場実現を六甲OB一同願っています。

(文責 50期 藤枝誠)



トラックで一緒に競争(?)

会 務 報 告

2025年度六甲伯友会総会報告

2025年度六甲伯友会総会を2025年5月10日（土）午後3時より、神戸ポートピアホテルにて開催いたしました。

木村副委員長の司会のもと、藤本会長の挨拶の後、濱田副会長を議長に選出し、下記の議案について審議しました。

- 第一号議案 2024年度事業報告の件
- 第二号議案 2024年度収支決算報告の件
- 第三号議案 伯友基金廃止の件
- 第四号議案 役員改選（一部）の件
- 第五号議案 2025年度事業計画案の件
- 第六号議案 2025年度収支予算案の件

審議の結果、すべての議案とも承認されました。以下、その内容をご報告いたします。

第一号議案 2024年度事業報告

●2024年度末総会員数および終身会員数

	総会員数	終身会費納入者数			年会費 納入者数
			抹消者数	終身会員数	
2024 年度末	11,686人	7,634人	595人	7,039人	67人
		新規 193人			延べ 122人
2023 年度末	11,609人	7,441人	544人	6,897人	66人
		新規 196人			延べ 81人
増減	77人	193人	51人	142人	1人
		新規 △3人			延べ 41人

●総務委員会

①定時総会 2024年4月14日（日）
於：神戸ポートピアホテル

②会議運営・資料作成・議事録作成
幹事会 年4回開催 2024年4/6(土) 7/13(土) 10/12(土)
2025年1/18(土)
常任幹事会年4回開催 2024年6/22(土) 9/28(土) 12/6(金)
2025年3/22(土)

上記日程にて幹事会、常任幹事会を開催（会場とオンラインの併用）

このほか、正副会長・委員長会議を1回開催

③会費の徴収

終身会費納入者 193人（前年比3人減）昨年196人
年会費納入者 67人（前年比1人増）昨年66人

④本会計・伯友基金・伯友奨学基金・伯友チャレンジ基金の管理

伯友基金として、東ティモールのイエズス会校支援（100,000円）

伯友奨学基金として、年間授業料の1名分相当額を支出（518,400円）

●事業委員会

①学校事業への協力

- 伯友文庫の充実
- 体育祭：運営スタッフの活動支援（2024年6月8日）
- OB企業訪問（高1）
2024年8月1日 神戸（川崎重工業、神戸地方裁判所）
2024年8月5日 大阪（パナソニック、北浜法律事務所、関西電力）
2025年3月10日・11日 東京（東京大学、国土交通省、DIP、丸紅）
- OB課外講義：2024年7月16日 39期 瀧浦浩氏
2024年12月6日 36期 森川雅浩氏
全校生を対象に実施
- 強歩会：成績優秀者へのメダル授与（2024年12月23日）
- 卒業式：卒業生への記念マグカップ授与（2025年3月1日）

②対外事業

- 四校対抗サッカー大会（2024年11月17日）
（幹事：上智福岡）
- イエズス会校同窓会連絡協議会（JJHAF）
（2024年11月23日）（幹事：栄光学園）
- 世界イエズス会系同窓会日本支部（WUJA）
（2024年10月12日）
- 栄光学園同窓会関西支部総会に出席（2024年11月10日）

③伯友奨学基金運営

- 基金のPR

④東ティモールへの支援

- 募金の呼びかけ

⑤伯友会の歴史を記録する活動

- 資料スキャン等

⑥学校との懇談（年4回）

- 六甲未来つばさ募金についての協議など

●広報委員会

①会誌「伯友」84号（春号）、85号（秋号）、86号（春号）
発刊

②ホームページ、メールの維持管理

- ウェブサーバ、ドメインネームサーバ、メールサーバ、SSLサーバの管理、更新
- ホームページ随時更新
- X（旧ツイッター）随時配信
- YouTubeチャンネルの運用

③「伯友会活動のあらまし」82期生に配布

●会員委員会

①総会懇親会実施

2024年4月14日(日) 神戸ポートピアホテルで開催
(WEBなし)

参加153名

②支部支援

・関東支部

・関東支部懇親会

2024年7月6日 上智学院11号館ラウンジで開催
参加85名

・関東令和塾開催

7月6日、11月13日、2月20日

・中部支部

・中部支部懇親会

2024年11月16日 中国料理王宮で開催 参加21名

・NY支部(NY研修)支援

③各期同窓会支援

・4つの期について郵送費を補助

・80期成人の日の集い支援

④伯友会ジュニア(50歳以下の会員対象)開催

2024年12月9日 11名参加

⑤82期の情報収集

⑥会員名簿の発行作業

●情報管理委員会

①事務局IT機器の管理

②常任幹事会・幹事会のリモート参加の実施

③ZOOMアカウントの貸し出し

第二号議案 2024年度収支決算報告

●本会計

2024年4月1日～2025年3月31日

(単位:円)

(単位:円)

	決算額	予算額	差異
収入の部			
①会費収入	9,111,000	7,950,000	1,161,000
・年会費	366,000	300,000	66,000
・終身会費当期納入額(193人)※1	8,745,000	7,650,000	1,095,000
②入金金	104,000	0	104,000
・新入会員入金金(13人)	104,000	0	104,000
③雑収入	51,873	2,000	49,873
・預金利息	373	500	△127
・雑収入	31,500	1,500	30,000
・寄付収入	20,000	0	20,000
・預り金	0	0	0
④名簿・広報誌制作協力費(広告収入等)	100,000	185,000	△85,000
・名簿広告収入	0	0	0
・名簿販売収入	0	35,000	△35,000
・広報誌広告収入	100,000	150,000	△50,000
⑤繰越金からの特別繰入金	0	914,000	△914,000
当期収入合計	9,366,873	9,051,000	315,873

※1 終身会費当期納入者:
新卒生等 162人、61～79期 1人、51～60期 9人、
41～50期 10人、31～40期 4人、21～30期 4人、
1～20期 3人

	決算額	予算額	差異
支出の部			
①一般管理費	3,091,502	3,186,000	△94,498
・通信費	368,707	400,000	△31,293
・事務局員報酬	1,937,800	1,800,000	137,800
・事務用品費	193,555	500,000	△306,445
・事務局警備費	105,600	106,000	△400
・慶弔費	165,000	30,000	135,000
・交通費	242,960	270,000	△27,040
・プロバイダー使用料	77,880	80,000	△2,120
②事業費	5,467,691	5,365,000	102,691
・総務委員会	201,265	300,000	△98,735
会議費	201,265	300,000	△98,735
・事業委員会	402,854	740,000	△337,146
学校事業協力費	33,600	120,000	△86,400
記念品制作費	319,754	500,000	△180,246
対外事業費	49,500	40,000	9,500
伯友会の歴史を残す活動	0	50,000	△50,000
伯友文庫費	0	30,000	△30,000
・広報委員会	3,423,148	2,585,000	838,148
広報誌作成費	993,322	1,010,000	△16,678
広報誌発送費	2,149,191	1,300,000	849,191
インターネット維持費	233,511	220,000	13,511
伯友会活動のあらし制作費	47,124	55,000	△7,876
・会員委員会	1,361,718	1,640,000	△278,282
調査費	0	0	0
名簿作成費	187,000	200,000	△13,000
名簿発送費	3,520	10,000	△6,480
会員交流事業費	430,111	500,000	△69,889
同期会援助費	190,087	200,000	△9,913
支部援助費	480,000	480,000	0
懇親会参加促進費	60,000	200,000	△140,000
伯友会ジュニア促進費	11,000	50,000	△39,000
・情報管理委員会	78,706	100,000	△21,294
システム保守費	78,706	100,000	△21,294
③予備費	0	500,000	△500,000
予備費	0	500,000	△500,000
当期支出合計	8,559,193	9,051,000	△491,807
④繰越金	807,680	0	807,680

財産目録

2025年3月31日現在

(単位:円)

	当年度	前年度	増減
合計	58,038,229	57,230,549	807,680
・現金	116,777	119,471	
・郵便局(会費納入受入口座)	27,614,014	26,556,154	
・普通預金/六甲伯友会 (会費納入受入口座)	8,144,145	8,079,013	
・普通預金/決済用普通預金	22,015,896	21,436,883	
・普通預金/伯友会3	147,397	1,039,028	

伯友基金口座在高
2025年 3月31日現在 (単位：円)

	金額
普通預金 三井住友／六甲	2,188,066
前年度繰越金	2,163,517
寄付収入	123,392
預金利息	1,157
六甲学院へ支払い	100,000

東ティモール聖イグナチオ学院援助

伯友奨学基金口座在高
2025年 3月31日現在 (単位：円)

	金額
普通預金 三井住友／六甲	6,061,433
前年度繰越金	6,506,470
寄付収入	70,000
預金利息	3,363
六甲学院へ支払い	518,400

伯友チャレンジ基金口座在高
2025年 3月31日現在 (単位：円)

	金額
普通預金 三井住友／六甲	768,430
前年度繰越金	768,036
寄付収入	0
預金利息	394
支払い	0

第三号議案 伯友基金の廃止について

六甲未来つばさ募金の創設に伴い、伯友基金の残金をすべて六甲学院へ寄付した上で、伯友基金を廃止する。

(理由)

- ・伯友基金は、六甲学院の教育活動と社会奉仕活動のために使用する目的で平成5年に設立されたもので、六甲未来つばさ募金と趣旨が同じであること
- ・伯友基金にはないが、学校が設立する六甲未来つばさ募金には税額の優遇措置（寄付金控除）があるため、寄付者にとってメリットがあること
- ・現在、伯友会には伯友基金・奨学基金・チャレンジ基金の3つがあるが、資金管理の面から整理が必要になってきていること

なお、ここ数年継続して10万円を拠出している「東ティモール聖イグナチオ学院支援」は、伯友基金から六甲学院社会奉仕活動委員会へ送り、そこから東ティモールに送金しているので、当面の対処のため、10万円×10年分＝100万円を社会奉仕活動委員会へ寄付し、残金を六甲未来つばさ募金に寄付することとする。

将来的には、六甲未来つばさ募金から社会奉仕活動支援名目で委員会へ拠出する見込みである。

伯友奨学基金については、六甲学院の奨学基金も存続するため、現状のまま継続します。

第四号議案 役員改選について

以下のとおり、役員の就任・退任を提案する。

なお、任期は他の役員と同様に、2026年度通常総会までとする。

(副会長)

- 退任 藤本 欣伸（41期）：関東支部長退任のため
新任 五百旗頭 薫（49期）：関東支部長就任のため
新任 東郷 直樹（37期）：情報管理委員会担当強化のため

(常任幹事)

- 退任 五百旗頭 薫（49期）：副会長就任のため
新任 藤本 欣伸（41期）：副会長退任のため

第五号議案 2025年度事業計画

●総務委員会

- ①定時総会 2025年 5月10日（土）於：ポートピアホテル
②会議運営・資料作成・議事録作成
幹事会 年4回開催 2025年4/12(土) 7/26(土) 10/11(土)
2026年1/17(土)
常任幹事会年4回開催 2025年6/28(土) 10/4(土) 12/ 5(金)
2026年3/28(土)

上記日程にて幹事会、常任幹事会を開催予定。

- ③会費の徴収
④本会計・(伯友基金)・伯友奨学基金・伯友チャレンジ基金の管理
⑤インターネットによる会議参加を意識した会議進行の検討

●財政検討特別委員会（必要に応じて開催）

- ①財政状況のモニタリング
②収支バランスの継続的検討

●事業委員会

- ①学校事業への協力
・OB企業訪問調整：神戸・大阪・東京で実施予定
・OB課外講義調整
・体育祭：運営スタッフの活動支援
・強歩会：成績優秀者へのメダル・トロフィー授与
・卒業式：卒業生への記念マグカップ授与
・伯友文庫の充実
・学校との懇談：年2回校長と協議
・六甲未来つばさ募金の検討（学校と共同で）
②対外事業
・イエズス会校同窓会連絡協議会（JJHAF）
（幹事：上智福岡）
・四校対抗サッカー大会
・世界イエズス会系同窓会（WUJA）日本支部立ち上げ検討
③伯友奨学基金運営：基金のPR
④(東ティモールへの支援：募金の呼びかけ)
⑤伯友会の歴史を記録する活動

●広報委員会

- ①会誌伯友87号（秋号）、88号（春号）発刊予定
- ②ホームページ、メールの維持管理
Webサーバ、ドメイン、メールサーバ、SSLサーバの
維持管理、更新
X（旧ツイッター）配信
- ③「同窓会活動のあらまし」発行、83期生に配布（200部）
- ⑤YouTube動画公開

●会員委員会

- ①総会懇親会実施支援
- ②支部活動支援（関東、中部、ニューヨーク）

- ③各期同窓会支援
- ④同好会支援
- ⑤伯友会ジュニア活動支援
- ⑥81期成人の集いイベント支援
- ⑦83期の情報収集
- ⑧2025年度発行の会員名簿作成に向けての準備作業

●情報管理委員会

- ①ZOOMアカウントの貸出、管理
- ②名簿のシステム改修
- ③今後の会議のあり方の検討

第六号議案 2025年度収支予算

●本会計

2025年4月1日～2026年3月31日

(単位：円)

	予算額 (A)	2024年度		増減 (A) - (B)
		決算額	予算額(B)	
収入の部				
①会費収入	7,950,000	9,111,000	7,950,000	0
・年会費	300,000	366,000	300,000	0
・終身会費当期納入額	7,650,000	8,745,000	7,650,000	0
②入会金	0	104,000	0	0
・新会員入会金	0	104,000	0	0
③雑収入	2,000	51,873	2,000	0
・預金利息	500	373	500	0
・雑収入	1,500	31,500	1,500	0
・寄付収入	0	20,000	0	0
・預り金	0	0	0	0
④名簿・広報誌制作協力費(広告収入等)	185,000	100,000	185,000	0
・名簿広告収入	0	0	0	0
・名簿販売収入	35,000	0	35,000	0
・広報誌広告収入	150,000	100,000	150,000	0
⑤繰越金からの特別繰入金	1,444,000	0	914,000	530,000
当期収入合計	9,581,000	9,366,873	9,051,000	530,000

(単位：円)

	予算額 (A)	2024年度		増減 (A) - (B)
		決算額	予算額(B)	
支出の部				
①一般管理費	3,596,000	3,091,502	3,186,000	410,000
・通信費	400,000	368,707	400,000	0
・事務局員報酬	2,200,000	1,937,800	1,800,000	400,000
・事務用品費	500,000	193,555	500,000	0
・事務局警備費	106,000	105,600	106,000	0
・慶弔費	30,000	165,000	30,000	0
・交通費	280,000	242,960	270,000	10,000
・プロバイダー使用料	80,000	77,880	80,000	0
②事業費	5,485,000	5,467,691	5,365,000	120,000
・総務委員会	300,000	201,265	300,000	0
会議費	300,000	201,265	300,000	0
・事業委員会	660,000	402,854	740,000	△ 80,000
学校事業協力費	120,000	33,600	120,000	0
記念品制作費	400,000	319,754	500,000	△ 100,000
対外事業費	60,000	49,500	40,000	20,000
伯友会の歴史を残す活動	50,000	0	50,000	0
伯友文庫費	30,000	0	30,000	0
・広報委員会	2,775,000	3,423,148	2,585,000	190,000
広報誌作成費	920,000	993,322	1,010,000	△ 90,000
広報誌発送費	1,400,000	2,149,191	1,300,000	100,000
取材費	180,000	-	0	180,000
インターネット維持費	220,000	233,511	220,000	0
伯友会活動のあらまし制作費	55,000	47,124	55,000	0
・会員委員会	1,650,000	1,361,718	1,640,000	10,000
調査費	0	0	0	0
名簿作成費	200,000	187,000	200,000	0
名簿発送費	20,000	3,520	10,000	10,000
会員交流事業費	500,000	430,111	500,000	0
同期会援助費	200,000	190,087	200,000	0
支部援助費	480,000	480,000	480,000	0
懇親会参加促進費	200,000	60,000	200,000	0
伯友会ジュニア促進費	50,000	11,000	50,000	0
・情報管理委員会	100,000	78,706	100,000	0
システム保守費	100,000	78,706	100,000	0
③予備費	500,000	0	500,000	0
予備費	500,000	0	500,000	0
当期支出合計	9,581,000	8,559,193	9,051,000	530,000
④繰越金	0	807,680	0	0

六甲伯友会活動関連

■2025年度 伯友会総会・懇親会

2025年5月10日（土）

会 場：神戸ポートピアホテル

参加者：146名

①平成塾 12：30～14：30

六甲学院OB講演

- 1) 荒木 大輔 氏（53期）兵庫県立リハビリテーション中央病院 スポーツ医学診療センター長
「オリンピックの舞台で選手を支える～スポーツドクターとしての歩み～」
- 2) 谷村 忠幸 氏（57期）クオリプス株式会社 取締役副社長
「元厚労省技官 コロナ対策と国際保健外交を語る」

②総 会 15：00～16：00

③懇親会 16：30～18：30

今年度の伯友会総会・懇親会は、2025年5月10日（土）に神戸ポートピアホテルにて開催いたしました。

懇親会では2つの特別企画を行いました。一つ目は「六

甲学院1期生メッセージ」として六甲学院1期生の千古進様へのインタビュー動画を放映しました。六甲学院の歴史を感じる共に先輩の貴重なお言葉に感銘を受けました。二つ目の特別企画②「体育祭今昔物語」と題し、「今年の体育祭取材した“ギャル”ディレクターから見た六甲像とは!？」をテーマに読売テレビ ディレクターの神子紗愛氏との対談を行いました。六甲生以外の視点からのお話を興味深く聞かせていただきました。また読売テレビで昨年放映された六甲学院体育祭の映像も放映しました。その後過去の体育祭の写真をもとに、先輩方より過去の体育祭について教えていただきました。私共が知らないような六甲学院体育祭にまつわるエピソードもあり、ここでも六甲学院の歴史を実感しました。その他、会場の室内に置いて体育祭写真のパネル展示も行いましたが、多くの皆様にご覧いただきました。

最終的に146名の皆様にご参加をいただき、盛会に終えることができました。伯友会会長の藤本会長をはじめ、ご指導いただきました多くの六甲学院の先輩方や事務局の鎌田様、西川様に厚く御礼申し上げます。

（幹事代表 57期 石原隆行）



株式会社 マヤテック

〒650-0024 神戸市中央区海岸通5 商船三井ビル

取締役会長 五代友和（15期）

TEL(078)391-3721, FAX(078)391-3927

みな かわ

南川和茂法律事務所

〒530-0047 大阪市北区西天満4丁目1番15号 西天満内藤ビル4階

弁護士 南川和茂（23期）

TEL(06)6365-0400, FAX(06)6365-0455

E-mail: kaminakawa@nifty.com

■2025年度関東支部懇親会

■関東懇親会概要

2025年7月19日（土）

会 場：上智学院

①令和塾：13：00～14：30 12号館102教室

鼎談「日本アニメの現在と未来」

登壇者：

川口典孝氏・塩田周三氏（44期）・武田義史（57期）

②懇親会：15：00～17：30 11号館ラウンジ

参加費：3,000円（62期以下無料）

■参加者（懇親会）：伯友会会員 87名

【来賓】

栄光学院同窓会 河原氏・川村氏・米村氏

広島学院翠友会 伊東氏・福德氏・宮井氏

上智学院 アガスティン・サリ理事長

六甲学院 石崎裕二先生

令和塾登壇者 川口典孝氏



今年も上智学院キャンパス内の教室・カフェテリアをお借りして実施いたしました。

今年は「幹事期のメンバーでしかできないコンテンツ提供」・「若年層が来やすい懇親会」を目標に、準備を進めてまいりました。

令和塾では初になる学外の方を登壇者にお招きし、「日本アニメの現在と未来」というテーマで日本アニメ業界のトップを走るお二人にお話しいただきました。90分の短い時間ではありましたが、ほぼすべての時間を参加者の質問に答える形式で、お二人それぞれのご経験、お二人が経営されているそれぞれの制作会社の歴史、海外での日本アニメの評価等、様々な分野のお話を聞かせていただきました。

参加いただいた会員様からは「アニメ界で第一線の二人の話を直接聞けた」・「普段は聴けない貴重な裏話や専門的な話が新鮮」・「登壇者同士や司会との掛け合いが和やかで、雑談も含め雰囲気が良かった」・「年齢層や業種の異なる視点から刺激を受けられた」といったご意見・ご感想をいただきました。

懇親会は「若い世代の方も参加しやすい懇親会」に変革するべく、料金設定を大幅に引き下げました。結果、13期から82期まで幅広くご参加いただき、世代を超えて楽しく懇親を深めることができました。

上智学院理事長アガスティン・サリ神父様・伯友会会長藤本様・関東支部支部長五百旗頭様・六甲学院代表として石崎先生・栄光学院同窓会会長河原様・広島学院翠友会関東支部支部長福德様の各皆様からご挨拶いただきました。令和塾のご感想や、伯友会に対する温かい言葉をいただき、



三輝工業株式会社

〒555-0043 大阪市西淀川区大野1丁目5-12

濱田誠剛（27期）

本社・工場 TEL(06)6475-5156(代), FAX(06)6475-5406

株式会社 ハヤシホレイ

〒661-0021 尼崎市名神町2丁目10-15

代表取締役 林 敬一（31期）

TEL(06)6429-7661

幹事期の面々にも非常に励みになったと感じております。

末筆ではございますが、今年の実施にあたっては、上智大学ご勤務の49期山内様、伊藤様を中心に上智学院総務局中等教育事務室の方々、50期川原様をはじめ関東支部幹事の皆様に手厚いご支援をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

(57期 幹事代表 武田義史)



■関東支部 2025年度上期報告

■関東支部より皆様へ

コロナ禍による行動制限が、社会的にも心理的にも収束が進んでいる中で支部活動も改めて積極的に行っていこうと計画しております。「同窓会とは楽しむもの」という元関東支部長塩村さんのお言葉に則り、参加者は当然ながら、運営／企画者も楽しんで行える支部活動を進めております。

ぜひ、皆様も令和塾（勉強会）、懇親会、その他さまざまな支部活動に興味関心をお持ちいただき、新しい活動へのご提案や、サポート依頼を含めまして支部への関心をお持ちいただけますと幸いです。

■活動結果報告

●全会員向け活動

2025／7／19（土）

2025年度 令和塾・懇親会開催（詳細は武田さん報告に記載）

概要抜粋）

- この5年間は法人合併を行った上智大学で実施
- 今年は非常に安価な懇親会を目指して、¥3,000－の参加費で実施
- 参加者100名程度、次年度以降、さらに参加者増を目指す（目標200名）
- 次年度以降、秋開催を予定（9－11月で調整を実施中）

●支部執行部活動

2025／6／12（木）

- 2025年度関東支部懇親会検討会を実施

2025／8／21（木）

- 2026年度関東支部懇親会検討会を実施

2025／8／下旬

- 在校生による東京研修（OB訪問）をサポート

●姉妹校連携活動

2025／5／23（金）

- 国会見学及び、栄光学院卒業生 浅尾慶一郎環境大臣を表敬訪問

(文責 50期 川原弘行)

■「六甲フェローシップ」のご紹介

今年度から、「六甲フェローシップ」を始めました。伯友会より研究費を支援し、OBが助言することで、現役生が自主的に研究して論文などの作品にまとめるのを応援するというプログラムです。

2018年に六甲学院のご協力により、50期を中心に母校で六甲大祭りが開催されました。その時の収益「チャレンジ基金」が原資になっています。

プログラムの運営にあたっては、六甲学院の先生方の御協力とお知恵に助けられています。

今年度は、11件の意欲的な応募があり、選考委員会による審議の結果、下記3件の研究計画が採択され、研究を開始しています。

弁護士法人 アーネスト法律事務所

〒651-0055 神戸市中央区熊内橋通7-1-13
神戸芸術センター 2803号

弁護士 藤本久俊 (31期)

TEL (078) 265-0810 FAX (078) 977-8065

井尻 整形外科

JR 垂水駅北、レバンテ垂水1番館2階

院長 井尻慎一郎 (32期)

TEL (078) 704-5055, FAX (078) 704-5066, URL <http://ijiri.jp>

- ①：ヴェネツィア共和国はなぜ発展し、衰退したのか
- ②：(仮) 都市のカラスはなぜ減ったのか
- ③：ロゴの変遷とそれが意味するものについて

このプログラムで大事なものは、フェローに助言をしてくださるメンターです。フェローの研究計画に近い経験・趣味・専門をお持ちのOBから名乗りを上げていただきます。オンラインまたは電話または対面にて、例えば30分お話しただけで、フェローは大きな学びを得ると思います。今年度についてはここで挙げる方々が既にメンターになってくださっています。

西谷誠 (31)、関根祐司 (37)、中曽聡 (49)、
成田博之 (60)、山田祐育 (75)

加えて、姉妹校・栄光学園のOB川村貞知様も六甲フェローシップのコンセプトに共感してメンターになってくださいました。

メンターになってくださった方、メンター募集にご協力くださった方に心より御礼申し上げます。

②のカラスの研究についてはなお鳥の生態ないし都市の自然環境に通じたメンターが必要ですので自薦他薦をお待ちしております。

もしご協力いただける場合は、選考委員会にお名前・期・ご希望連絡先・対応可能な分野を下記メールアドレスまでご一報いただければ幸いです。

rokko_fs@rokkogakuin.net

なお、10月3日に関東支部のオンライン・対面ハイブリッド研究会である令和塾の企画として、フェローからの中間報告会を開催する予定です。

完遂された研究については、来年春の伯友会懇親会においてミニ報告会及び授賞式が行われる予定です。そのような日を迎えられるよう、選考委員会として微力を尽くす所存です。

六甲フェローシップとフェローの方々への応援を心よりお願い申し上げます。

六甲フェローシップ選考委員会
五百旗頭薫 (委員長・49)

森本謙 (49)
高端恭輔 (60)
三浦太郎 (66)
須藤玲 (71)
山本達也 (79)

(文責 49期 五百旗頭薫)

栗本神父様訃報



六甲伯友会名誉顧問 (第3代六甲学院校長) パウロ栗本昭夫神父が7月17日 (木) 午前4時5分に、老衰のため、東京のロヨラハウスで帰天されました。98歳でした。

通夜は7月21日、葬儀ミサ・告別式は7月22日、いずれも東京の麹町 (聖イグナチオ) 教会主聖堂で執り行われました。

栗本神父様のためにお祈りください。

葬儀ミサの二次元コードは右記の通りです。



【略歴】

1927年2月12日 広島県安佐郡 (現在の広島市安佐北区) に生まれる
1951年3月30日 イエズス会入会
1962年3月18日 司祭叙階
1964年～1982年 六甲中学校・高等学校で化学を教える
1970年～1975年 学校内の修道院院長
1975年～1982年 六甲中学校・高等学校校長
1982年～1987年 イエズス会日本管区長
1988年～1989年 浄水通教会主任司祭 (福岡) 泰星中学高等学校で化学を教える
1989年～2010年 聖イグナチオ教会助任司祭
2010年～2015年 聖イグナチオ教会協力司祭
2015年～2021年 司牧活動 (SJハウス)
1983年7月～1986年3月、1989年4月～2001年3月 泰星学園理事長
1989年6月～1990年5月、1997年6月～2001年3月 六甲学院理事長
2021年1月26日 ロヨラハウス
2025年7月17日 帰天

有限会社
アークスコーペ
一級建築士事務所

32期

石丸信明

〒530-0041 大阪市北区天神橋2-2-23 アークスビル
Tel 06-6136-1070 Fax 06-6136-1071
ishimaru@arkkobe.com https://arkkobe.com

社史・自分史等編集より承ります。

(株) 学術出版印刷

〒554-0022 大阪市此花区春日出中2-14-9
代表取締役 近藤 健 (32期)

TEL (06) 6466-1588, FAX (06) 6463-2522, E-mail: kondou@mxt.mesh.ne.jp

現役生企画 六甲学院現役生指導員インタビュー

指導員を通して感じたこと

中学1年生が入学してから約2ヶ月半指導員として生活を共にし、指導員という六甲の伝統的な役割を与えられた彼らはどのようなことを思って接してきたのでしょうか。任期終了を約10日後に控えた指導員達にインタビューしてみました。

日 時：2025年7月12日（土）13：20～14：20

場 所：六甲学院

指導員：A組 藤原君、B組 大橋君、
C組 西蔵君、D組 高谷君（高2・84期）

六甲学院教諭：山岸先生

インタビュアー：広報委員会 宇都宮（20期）・
藤枝（50期）・岸本（53期）



指導員のみなさん（左から藤原君、大橋君、西蔵君、高谷君）

指導員4名の自己紹介

藤枝：指導員の方4名の自己紹介をお願いします。

藤原君：中1A組を担当している藤原といいます。小さい頃からずっとラグビーをやっていて、今もラグビー部に所属しています。

藤枝：ありがとうございます。

B組の大橋君をお願いします。

大橋君：中1B組を担当している大橋です。所属しているクラブは音楽部で、担当はフルートです。実は、音楽部に入った理由には、指導員が絡んでいるんです。僕が中1で入った時の指導員に80期の鈴木先輩がいらっしゃって、それまでは全然音楽とかやっていなくて、音楽部に入ろうとは考えていなかったんですけど、六甲に入学してみて、鈴木先輩が手取り足取り教えてくれて、この先輩だったらついていきたいなと思って音楽部に入ることにしました。最初は楽譜とか全く読めなくて色々大変だったんですけど、今は後輩ができて、中1から何人か音楽部に来てくれて嬉しいなと思っています。

藤枝：ありがとうございます。

C組の西蔵君をお願いします。

西蔵君：中1C組を担当している西蔵です。普段は陸上部の部長として短距離を専門に取り組んでいるのですが、そこで後輩とか繋がりを持ちながら、みんなをまとめる仕事をしています。

藤枝：ありがとうございます。

D組の高谷君をお願いします。

高谷君：中1D組を担当している高谷です。僕は化学部に所属しています。物理も結構好きなんですけれども、化学発光とか、匂いとか出たり煙が出たりとか、そのような実験ができることに興味を惹かれて化学部に入りました。後

輩との繋がりを密接に持ちたいと思ったので、なるべく優しく接するというか、困っている人がいたら助けるというか、厳しく接するだけではなく和やかな雰囲気になるような工夫をしています。

藤枝：ありがとうございます。

日常の指導時間

藤枝：具体的に指導の内容をお聞きしたいのですが、タイムスケジュールは決まっているのですか？

西蔵君：決まってません。大体7時40分ぐらいに登校して、中1の教室に行って朝の朝礼が終わるまで過ごします。

藤原君：昼は、教室で一緒にお弁当を食べてから外でサッカーとか野球をして遊びます。意外と庭園での散歩が人気です。小学校ですと、森みたいな空間があんまりないので、そこに興味を惹かれるようです。

大橋君：中間体操は一緒に走っています。役員以外は上着を着ているのですが、中1の何人かは一緒に上裸になってくれます。

藤枝：僕らの時は最後にダッシュしてました。

西蔵君：役員ランっていうのがあって、役員だけで、最後、みんな並んで中間体操しています。

藤枝：話は変わるけど、皆さんは体育祭にも関わっていましたか？

西蔵君：僕は先頭役員を担当して、皆を引っ張る存在として行進させていただきました。

藤原君：僕は競技役員をやっていて、競技面を全部担当させていただきました。相撲が復活して結構盛り上がりました。

大橋君：僕は、役員はやってないですけど、音楽部で今回ソロがあったんですよ。ピッコロっていうフルートみたいな小さい楽器で、「星条旗よ永遠なれ」っていうすごく難し

い曲を頑張って吹いたら、周りからも良かったって言ってもらえたし、保護者さんで吹奏楽経験がある方から、良かったという感想を友達経由で聞いてすごく嬉しかったです。

高谷君：僕は役員はしなかったんですけど、来年は企画パートにいきたいなと考えています。今回、ミャクミャクとか、インベーダーゲームとか、独創的な絵柄が多くて、来年それを作れたらいいなと思っています。

藤枝：僕は設計をやっているんだけど、体育祭の図形は、デザインだと思うんですね。まずアイデアがあって、どういう形にするかとかね。図形が複雑化しているっていうのはみんな驚いていて、もちろんコンピューターソフトの進化もあると思うんですけど、やっぱり皆さん自身の進化だと感じています。

宇都宮：私達の頃の行進は生徒主体じゃなかったんですよ。先生が指導するんだけど、今みたいなあんな複雑なことはやっていなかった。時間は30分くらいだったと思う。音楽部は一緒です。演奏する場所は、自分達で丸太の小屋を造っていました。中間体操も違って、始めから終わりまで無言で一緒に走るだけで、指導員だけで走るとかはなかった。

藤枝：皆さんは文化祭の役員はされますか？

高谷君：僕は企画パートの主任をやらせてもらっています。中1から高2までの全企画をまとめるという形で、中1であればダンス、中2は合唱、中3はクラス別企画、高2の一部と高1は何人が集まってグループ企画をしています。去年から料理を自分たちで作る企画がなくなりました。

山岸先生：今はなんと、キッチンカーが現れるようになりまして、結構好評なんです。

藤枝：そうなんですね。皆さんは、どんな風の中1を指導していこうと考えていますか？

藤原君：最初の頃はわからないことだらけだと思うので、色々細かく教えていかないといけないなと思っていたんですけど、ある程度のことが分かってきたら、なるべく自分達でやらせるようにしていました。僕達が手を加えすぎたら、逆に中1の成長がなくなってしまうと思ったので、5月ぐらいからは、ずっとお世話するみたいな感じではなくて、僕達がいなくなってもちゃんと生活していけるようなサポートをするようになりました。最初は、制服がそもそも初めての子が多くて、ベルトの付け外しとかに時間がかかっていましたが、今ではもう大分早くなってきています。掃除でも何やったらいいかかわらずに、次何すればいいで



すかって聞きに来る人が大半だったんですけど、今では何も言わなくても自分達で次これやろうって声かけあったりしてできているのが、すごく成長が見えて嬉しいなと思っています。

藤枝：もう会社の上司の言葉みたいな感じですね。僕も日々、人を育てるのは難しいと思っているんですけど、高校2年生で同じようなことをやっているのはすごいなと思いました。積極的に質問できない生徒に対してはどんな接し方をするんですか？

藤原君：僕も中1の頃、そっち側のタイプで、なかなか上の先輩とあんまりうまくおしゃべりできない感じだったので、その子達の気持ちがわかるような気がして、僕の方から積極的に話しかけるようにしています。当時は、やっぱり相手から話しかけてくれた方が、僕としてもコミュニケーションを取りやすかったですし、今度は僕がちゃんと積極的に話しかけてあげるという感じです。

藤枝：その答えを待っていました、さすがですね。

大橋君はどうですか？

大橋君：僕は、指導員の話先生からもらった時に結構悩んだんですよ。鈴木先輩のような指導員になるのが難しいのではないかと考えていました。僕の叔父の44期の宅見さんも指導員だったらしく同じように出来るのか不安でした。それでも、せっかく先生からお話をいただいたから、やってみようということで引き受けました。これまでは、中1とか後輩と接するよりも、どちらかというと先輩と接したりする方が好きというか、僕には向いているなと思っていました。音楽部でも後輩にうまく教えられずにいて不安だらけでした。ですけど、実際にやってみたら意外と中1の方からも話してくれて、すごくいいなと思いました。指導員って、先生でもなければ友達でもなくて、塩梅が難しいじゃないですか。冷たすぎてもダメだし、お兄ちゃんっていうのが1番いいんじゃないかなって思いました。1人1人の相談に乗ったり、一緒に遊んだり、笑い話をしたりしていると、向こうから、ちょっとずつ勉強のこととか六甲生活のこととかを相談してくれるようになって、不安がどんどん消えていって、後輩との接し方も変わったし、僕自身も結構成長しているなって感じています。

藤枝：すごくいい経験をしていますね。馴染めない子にはどう接していますか？

大橋君：そうですね。やっぱり六甲の坂がきつかったり、宿題が多かったり、いろんな子がいるんですけど、僕自身



も最初から色々できたわけじゃないから、例えば、坂だったら、友達と喋りながらだったらスムーズに歩けるとか、勉強だったら学校で自習してみたらとか、自分自身の経験からアドバイスをしています。

藤枝：坂はきついね。30年ぶりぐらいにお墓ルートを登ってみて、きつくてびっくりしました。

大橋君：僕も中1の時はさすがにきつかったんですけど、先輩の方から一緒に登ろうと声をかけてくれたのが嬉しくて、僕も中1と一緒に登ろうとは思っているんですけど、僕の登校が早すぎて、中1がまだいないことや、中学と高校で登校ルートが分かれていることもあって、あまり一緒に登れていないです。

藤枝：わかりました。西藏君はどうですか？

西藏君：少し具体的な話になるんですが、朝礼で、中1が遅すぎて全体を待たすことがあって、さすがにそこはしっかり指導しないとイケないと感じて、4人で話し合ってちょっとずつ改善できたのは良かったなと思っています。

藤枝：ビシッとしないとイケない時は、中1の生徒に対してはどのように接していますか。

西藏君：そこはやっぱり、なぜダメなのかという根拠を言わないとイケないのかなと思っています。

藤枝：わかりやすい言葉にして相手に伝えて腹落ち・納得させる言語化ですね。僕らが六甲に通っていた頃は、今言うパワハラみたいなことはたくさんあったと思う。

宇都宮：そうだけど、生徒はそうは受け取ってなかったからね。理不尽なことをやらされているなっていう意識はあったけれども、別にそれに対して説明せいかはなかった。僕らの頃は、高2の全員が指導員で、日替わりで中1の教室に行くわけですよ。その指導員達にそれぞれ個性があって、いろんな言い方で伝えていた。指導員だからといって、優秀な人ばかりじゃない。これをしたら校長に怒られるよというようなことも、教えるんです。僕らの頃は校則もなかったから、武宮校長が怒らないことをやっていればいいというぐらいの意識で、比較的自由な学校だったんですよ。全員が指導に行くから、高2と中1の間柄がものすごく密接なんですよ。

藤枝：なるほど。高谷君はどうですか？

高谷君：そうですね、初めの方は結構緊張していて、みんな不安な感じで、指示を待ってるような感じでしたけど、今では、例えば掃除であれば、今ほうきが終わったから雑巾しようみたいな感じで、周りが見れるようになってきた

なと思うし、中間体操とかであれば、初めは乗り気ではなかったんですけど、だんだん声を出して走ってくれる子が増えてきて、僕も元気づけられて、とても嬉しく思っています。

六甲学院について

藤枝：海外研修についてですが、シンガポール、マレーシアはみんなで行っているんですよね。いつ行ったんですか？

指導員全員：高校2年生の6月です。

藤枝：ついこの間ですね。ニューヨーク研修はみんなで行ったんですか？

西藏君：いいえ。このメンバーの中だと僕一人です。

藤枝：インドとカンボジアは年によって入れ替えですよ。行かれた方はいますか？

藤原君：僕が中学3年生の時カンボジアに行きました。

藤枝：シンガポールとマレーシアは、どうでしたか？

藤原君：バスの中から景色を見たんですけど、ビルが全部すごく高くて、全然日本と違うなって思って、逆に向こうの方が発展していると感じました。

藤枝：確かにねえ。50期は修学旅行で韓国に行きました。53期はどうでしたか？

岸本：海外は行っていません。自分達で決めていいって言われて投票で沖縄になりました。

山岸先生：沖縄は、割と最近まで結構続きましたよ。今の校長になってから、海外にも行こうとなりました。

藤枝：僕自身は韓国が初めての海外で、海外って怖いという先入観がなくなったのは、学校のおかげだなと思っています。だから、皆さんの海外研修での経験が、海外旅行に行ったり、海外で働くきっかけになるんじゃないかなと思っています。伯友会のホームページに掲載している皆さんのニューヨーク研修の感想を見ると、良い経験をさせてもらったっていうのがいっぱい書かれていて、すごくいい研修だなと思いました。続いて、六甲の好きなところと嫌なところを聞かせてください。

藤原君：まず好きなところですが、元々僕は自然とか山とかが大好きで、六甲って庭園も含めて山がすごく近くにあることがいいなって思っていて、六甲に入った理由の1つでもあります。あとは文化祭もそうなんですけど、入学前に体育祭の総行進を見てすごいと思いました。男子校の独特の雰囲気も好きです。嫌なところは、今言った男子校のノリが行き過ぎると、変な感じになっちゃうところです。

藤枝：本当にそうですね。たまに嫌な時がありますよね。大橋君お願いします。

大橋君：さっき藤原君が言った通り、自然がすごいいいなと思っています。景色がすごいじゃないですか。僕は、景色をよく見ていて、列車とか、飛行機とかを見ていると、気分がリフレッシュされるからいいなと思っています。後は、先輩が後輩を指導するという六甲の制度のおかげで縦の繋がりが他校よりすごいなと思います。音楽部もそうなん



すけど、掃除を生徒が後輩を指導するとか、先生じゃなくて生徒から言われるっていうのは、後輩にとっても先輩にとっても成長に繋がるんじゃないかなと感じていて、六甲の上と下の繋がりやの仕組みが僕はすごく好きです。嫌なところはあまりなくて、六甲が大好きなんです。強いて言うなら、最近、社会の流れで六甲が色々変わっていますが、僕は昔の方がもっと生徒全体としてまとめたような気がしていて、そっちの方が楽しいんじゃないかなと思っています。例えば、みんなで上裸になった方が、一体感がでたり、絆が深まるような気がしています。

藤枝：上裸の他に何か変わったことはありますか。ほうきが長柄になったり、便番のやり方とかですか？

大橋君：はい。後は、髪髪ですかね。今までは、眉毛にかからないとか、耳にかからないっていうのがあったんですけど、今は目の穴までっていう風になっています。僕は、もっとさっぱりした感じがいいから、前の方が良かったと思っています。

藤枝：マッシュヘアは？

指導員全員：ぎりぎりセーフです。

藤枝：それは時代の変化ですね。では、西蔵君お願いします。

西蔵君：僕は、今年体育祭に参加させてもらって、先輩達と一緒に1個のことを成功させるという経験が出来て、一体感とか達成感が味わえたところがいいところだなと思っています。嫌なところは、あんまり出てこないです。

藤枝：女子がいなのは嫌じゃないの。

西蔵君：いや、もうそれは諦めです。でもやっぱり大きく見ると、六甲の文化であったり、やっていること自体が、僕にとってすごくプラスなので好きなところの方が多いかなっていう風に思います。

藤枝：素晴らしいです。高谷君はどうですか。

高谷君：そうですね。文化祭とか体育祭とか強歩大会とか、後は海外研修とか色々な経験を積めるような機会がたくさんあるところがいいなと思っています。嫌なところとかはよくわかりませんが、スマホ持ってきたらダメなところとかですかね。ただ、スマホを禁止することで学校の雰囲気良くなったり、スマホがあったら勉強とか行事の時に、イマイチなんじゃないかなと思います。女子がいなことにしても、男子だけなので仲むつまじく打ち解けて話をしたり、周りの目を気にせずに生活できるっていうのは非常にいいところだなと思います。

藤枝：男子校ならではの良さはありますよね。

宇都宮：今話を聞いてみたら、やっぱり僕らの頃と基本的には変わっていないんです。上級生と下級生もすごく仲がいい。こんな関係性は他にはないと思います。伯友会で同窓会に行くでしょ。そこでも決して先輩が威張っているわけではなくて、雰囲気が同じなんです。卒業したら、是非伯友会に顔を出してください。六甲の雰囲気や良さをそのまま味わえると思います。もう1つ、僕らの頃はなかったのでカト研でどうしているのか聞いておこうと思います。

大橋君：僕は、カト研なんですけど、元々キリスト教にはあ

まり接点なくて、指導員の鈴木先輩にくっついていくために入ったんですけど、入って見たら、意外と楽しくて友達も出来ました。活動内容としては、週1ぐらいで昼休みに集まっています。担当の岩井先生が最近はどうな感じと聞いた話をしたりして、宗教的な活動というよりは、メンバーで楽しく過ごすという感じ。後は、研修旅行が毎年3月ぐらいにあって僕は中2の3月に広島に平和学習で行って、中3の最後には西成の釜ヶ崎に行って路上生活者の方のお話を伺って、どうしてこういう風になったのかっていうのを学んだり、今年の3月には平和学習で長崎に行きました。先輩とか後輩と一緒にいったので、学年を超えて仲良くなれるし、学ぶことが多いなと感じています。

宇都宮：必ずしも信者さんではないわけですね。

大橋君：はい。必ずしも信者ではないです。

山岸先生：今は生徒の中で信者の人って非常に少ないんです。先生の中でも同じです。神父さんも学校に1人だけですから。

岸本：中1のみんなは入学してからどのように友達が出来ていきますか。

藤原君：コミュニケーションがすごく得意な子とかは、入学式の時にはもう近くの席の人とおしゃべりするようになっていきますけど、僕も含めてそうじゃない子達にとって1番大きいのは体育祭だと思います。今は、体育祭の後から部活が始まるので、競技とか走行で仲良くなるっていうケースが多いと思います。練習って結構待ち時間あるので。

西蔵君：僕の場合だと、中1で部活の仲間がたくさん出来て今も仲良くしています。

大橋君：僕は指導員として、1対1で遊ぶのでなくて、何人か集めて一緒に遊ぼうとか一緒に話するようにしていて、そうすることで自然と仲が良くなっていく感じです。

藤枝：なるほど。以上で終わります。ご協力ありがとうございました。

六甲の伝統的な「指導員」という役割をきっちりと果たそうとしている真摯な姿勢が印象的でした。日々色々考えながら中学校に入ったばかりの後輩を六甲の独特な生活に順応してもらえようサポートする事を通して彼ら自身も初めての体験を通して成長しているのだと感じましたし、先輩と後輩のつながりや相手を思いやる気持ちが強いことが六甲の良さの一つだと改めて感じました。貴重な機会を作っていただいた山岸先生と指導員の皆さんに感謝します。ありがとうございました。（文責 53期 岸本吉史）



先生を訪ねて

この欄では、六甲の先生を訪ねて、インタビューを通してその先生のご活躍をご紹介します。
今回は、山岸先生・石崎先生・西尾先生・鈴木先生にお話を伺いました。

社会科	山岸 慎一（やまぎし ていいち）
国語科	石崎 裕二（いしざき ゆうじ）
英語科	西尾 由子（にしお よしこ）
英語科	鈴木 史歩（すずき ふみほ）

～六甲学院海外研修について～

日 時：2025年6月21日（土）15：00～16：00
場 所：六甲学院
インタビュー：広報委員会 宇都宮（20期）・藤枝（50期）・徳久（54期）

六甲学院では、生徒たちが世界の様々な社会・人との交流を深めることで視野を広げ、志を培うために継続的に海外研修を実施しています。今回で11回目を迎えたアメリカ・ニューヨーク研修を中心に、先生方に研修の概要や意義、OBとのつながりについて伺いました。また、環境変化が続く中で現在の六甲生の特徴や訓育の様子を通じて、変わらない六甲精神と変化せざるを得ないものは何なのかを先生方との対話を通じて考える機会を得ました。

——初めに、ニューヨーク研修の概要について教えてください。

石崎先生：今回11回目となるニューヨーク研修では、高校1年の春休みに20名を選抜し、10日間の行程でニューヨークとワシントンを訪れています。以前はニューヨークとボストンを訪問していましたが、コロナで中断していたことや、現地でお世話になっていた関係者の方がボストンを離れたこともあり、ニューヨーク&ワシントンの現在の研修の形に変更になりました。ワシントンを選定したのは、ワシントンにも六甲OBが何人か滞在されていることや、以前六甲でも教鞭に立たれていたファージ先生からジョージタウン大学の教授を紹介して頂けたというところからです。

研修の内容としては、まず、ワシントンから始まり、ジョージタウン大学やスミソニアン博物館群の見

学、OBが勤めている世界銀行や米州開発銀行の職場を訪問して、そこで生徒にプレゼンを行う機会を提供しています。また、現地のOBの借りているアパートのパーティールームで、OBを交えての懇親会も行い、生活や仕事に関する具体的なお話を伺っています。

3日間のワシントンでの研修を経てニューヨークに移動になります。ニューヨークではイエズス会の姉妹校やメトロポリタン美術館を訪れます。始めは男子高校生が美術館でどのような反応をするのだろうかと若干懸念もありましたが、「時間全然足りなかった」「また来たい」との声も多くあがり、感性に触れる体験になっていると感じています。また、ニューヨークでも様々なOBの方がいらっしゃるののでレストランで懇親会を行っています。今回はOBの素性を隠したままでグループディスカッションを行い、OBの素性の謎解きを行うというイベントが好評でした。

——ニューヨーク研修の概要を伺うと現地のOBも多く関わっていると感じます。

石崎先生：そうですね。ニューヨーク伯友会のメンバーなど、当然メンバーは年々変わりながらですけどもニューヨーク研修の学びの機会に多大なる協力を頂いています。毎月ZOOMで打ち合わせに応じて頂いている方などもち、感謝しかありません。

現地のOB達を拝見すると、多様な方がいらっしゃって、



（左から）山岸先生・石崎先生・藤枝・徳久・鈴木先生・宇都宮・西尾先生





様々な将来を展望している生徒たちに刺激になっていると思います。六甲学院は今も昔も理系が7割と、理系の方が多い学校なのですが、現地には土木系の専門家や建築家、金融関係、商社マンなど理系・文系出身問わず様々な方がいらっしゃいます。また、街によって見学する組織の毛色も少し違ってきます。ワシントンでは世界銀行など社会貢献的な役割を担う組織の側面を、ニューヨークでは違う文化のなかに飛び込んでいって成果を上げていくような独立独歩な仕事のニュアンスを感じとることができています。生徒にとっても多様なOBを自分の未来に重ね合わせることで、より海外を自分事として受け入れる形になっているのかなと思います。

ニューヨーク研修を体験したほとんどの生徒は「また絶対大学で留学します」や「将来海外で働きたいです」という想いを口にします。10日間という短い時間ですが、OB達との交流だけでなく、語学の面でももどかしさや挫折を味わったり、逆に現地の友達との関係性を築くような成功体験を積んだり、自分がいる世界の外へ目を向ける機会としてとても貴重な機会になっていると感じています。

——非常に生徒にとって価値のある体験になっていると感じますね。やはり希望する生徒は多いのではないですか。

石崎先生：そうですね。20名枠で募集を行うのですが、だいたい倍率は2倍ぐらいです。応募があった生徒の中から作文と面接でセクションを行うのですが、熱意がある生徒が合格していると感じます。

海外研修でいうとニューヨーク研修以外にも40期から始



まっているインド訪問研修や近年始まったカンボジア訪問研修をそれぞれ隔年で実施していて、こちらも希望者を応募する形になっています。ニューヨークとインド・カンボジアに行く生徒はなるべく重ならないように配慮は行っています。それらとは別に全員参加でシンガポール・マレーシアでの海外研修を高2で実施しており、六甲生は全員海外に触れて卒業するような形のカリキュラムとなっています。

——全員が参加するというシンガポール・マレーシア研修についてもご紹介いただいてよろしいでしょうか。

西尾先生：はい。シンガポール・マレーシア海外研修については、2年前から以前の沖縄の修学旅行から引き継ぐ形で行っています。4泊5日でシンガポールから国境越えをしてマレーシアに訪問する経路になっています。

シンガポール・マレーシアを研修先として選んだ理由は、まず、沖縄から引き継ぐ形ですので、平和教育という側面は継続できるようにと考えました。その中でOBの先輩たちが現地にいらっしゃるということ、英語を学ぶこと、アジアのトップクラスのシンガポール国立大生徒との交流が可能であることなどが理由となっています。また、アジアの最先端として発展してきたシンガポールの仕組みとアジアの原風景であるマレーシアの自然を肌で感じて欲しいと考えました。盛りだくさんで欲張り過ぎかもしれませんが…。

——現地でのOBの存在が研修先選定の理由になる学校というのは珍しいのではないのでしょうか。逆にOBから見ても現役の生徒と交流できるのは貴重な機会になると思います。

西尾先生：旅行会社の方も、OBの存在は「本当にすごい」と驚かれています。シンガポール・マレーシア研修でもOBにご参加いただきまして、ホテルで講演会を行っていただきました。こちらも生徒たちには大変刺激になったようで、最後の記念撮影の時間もないぐらい生徒たちからの質問攻めにあっていました。





現在、海外で活躍されているOBは様々な世代がいっぱいいますが、特に50期代、60期代の方が多いと思います。海外研修でお世話になっている80期代の生徒たちが、100期ぐらいの生徒を受け止めて、海外研修に協力するような形で引き継いでいってくれればと思っています。

——海外研修について貴重なお話をいただきありがとうございました。協力を厭わないOBの気持ちが年々引き継がれていっていると伺い、OBとしても大変嬉しく感じます。

ここで海外研修とは話が変わってくるのですが、時代の変化とともに六甲生の中に引き継がれていくこと、変わっていくことなどもあるのかなとOBとしては感じています。そのあたりはどのように考えられていますか。

石崎先生：変わっていくことで言えば、目に見える形での大きな変化として、コロナ禍を経て便番や中間体操での短パン一枚という服装は辞めました。六甲の脱ぐ文化のルーツとかは、六甲生・OBでも知らない方も多いのですが、昔の資料を読むとドイツの養生法から取り入れられたという歴史があるようです。元々のルーツというのは、現在では意味がほぼ薄れている中で、コロナ禍を受けて上半身裸を強いるというスタイルに疑義が生じたという訳です。現在は、上半身の衣服の着脱は生徒の自主性に任せています。便番で言えばほぼ全ての生徒は着衣していますし、中間体操でも着ている子の割合が多いかなと思います。体育祭でも自主性に任せるかたちになっています。

短パン一枚のスタイルは、六甲の伝統だったという部分があり、辞めることにOBなどの方にも様々な感情はあるのかも知れません。でも、例えば便番のスタイルは変わっても、便器に向かって一所懸命きれいにするという姿勢は変わっていません。形にこだわるのではなく、目的や意義を大切にしていくことが大事なのだと捉えています。一定のルールを守れば形については自主性に任せる部分を広げていっても、目的や意義は受け継がれていくと感じています。

——昔は訓育生などの怖い先輩がいて、強制的にやらされていると感じる部分もありました。訓育の形も変わってきているということでしょうか。

石崎先生：訓育生の後輩への接し方などは昔から変わってきている部分もあると思いますが、訓育生の仕組み自体は今後も変わらない部分としています。訓育生の制度は六甲

の宝の一つだと思います。

訓育生自体もコロナ禍で一回リセットになり、先輩の訓育生から指導を受けていない学年もありました。その学年の生徒たちはモデルがいないので、やっぱり自分が指導する立場になると始めは苦労していましたが、時間とともに落ち着いてきました。まれに昔ながらの厳しい訓育生が出てくることもありますが、基本的には当たりがソフトな生徒であっても、六甲で培われたメンタリティがあって、OBの方に見ていただいても安心していただけるのではないかと感じています。

中間体操も全員が短パン一枚のスタイルではなくなりましたが、昔と比較しても遜色ないだけでなく、今の方が良くなったと感じられる部分もあります。きちんとグループがまとまって走っているというのが分かりますし、上級生になってくると列が揃ってきて綺麗だと感じます。声も良く出ていますね。特に中間体操委員のグループが中間体操の締めで走るのですけれど、それがとても整っていて下級生からは良いモデルになっていると思います。



——やらされるのではなく、自主的にやろうというところがいいですね

石崎先生：生徒たちも強制的にではなく、自主的にできるように考えているのかもしれませんが。先輩の方も、後輩に対する声のかけ方が、時代に合わせてなのか上手くなっていると感じます。今の体育祭委員長の生徒も、体育祭の練習の時には「頑張ってくれてありがとう」とか、「こんな風にやろう」とか、中1の生徒に響くような声のかけ方を工夫してやっていると思います。

——そのような時代の変化に合わせて、先生たちの指導も変わってきたのではないですか。

石崎先生：体罰が一番分かりやすい例だと思いますが、昔だったら許されていたことが、今は当たり前前にダメということは増えてきています。そんな中で昔のようにただ厳しただけで指導していくというのは困難で、合理的にきちんと説明できるかどうか大事だと思います。昔なら「四の五の言わずにやれ」とか「やってから言え」などの厳しい姿勢で指導することもあったかと思いますが、今は言葉で、それこそ中1の生徒でも理解できるように意味や意義を伝



えることが大事だと感じています。

あと、もう一点今の生徒の特徴として、生徒個人の声に耳を傾けてあげないといけないという所があります。どうしても引っ込み思案で思っていることや言いたいと思っていることを積極的に口に出せない生徒も増えています。そのため指導していく上で聴くという姿勢も大事だと感じています。

このように時代の変化によって指導の仕方も変化していますが、六甲ではそれが深刻な問題になるということとは、現状ではないと思います。例えば体育祭では、生活面の責任者である訓育部長と勉強面の責任者である教務部長がリレーに出たときに、生徒たちが大変盛り上がるというエピソードがありました。もしかしたら他の学校であれば生徒から疎まれる役職の代表格の二人といえるのかも知れません。このようなエピソードを見ると六甲は先生と生徒の関係性は、とても健全な学校なのだと思いますね。

——エピソードで紹介くださったように、人と人との関係性や“ノリ”の中に六甲で受け継がれている精神があるような気がします。

鈴木先生：昔の六甲生は、仲間で騒いだり、馬鹿なことをやったりと日常的に発散する機会が多かったかもしれませんが、今の生徒は発散の仕方が分からないであるとか、発散する機会自体も昔に比べると減っていると思います。

ただ、それこそ体育祭などで先輩たちが雰囲気を作ってあげて、盛り上がっている姿や楽しんでいる姿を見せてあげることで、後輩が六甲での盛り上がり方や楽しみ方を理解し、そして、それを次の世代に受け継いでいくという文化があるような気がします。

先輩後輩の関係性と言えば、例えばクラブで見ていると、昔よりもフランクな関係になっていると感じます。後輩が先輩のことあだ名で呼んでいたりと、馴れ馴れしい口調で話したりすることになる印象です。ただ、それが先輩をなめているかと言えば、そうではありません。先輩のことを慕っているし、反対に先輩の方でも後輩のことをかわいがっていて、一定の信頼関係が築かれています。見た目の様子こそフランクですが、そういう所は昔から変わっていないと感じています。

六甲は、やっぱり勉強も難しいし、登校の坂もきついし、

1年生で入ったばかりの生徒にとっては超えないといけないハードルがたくさんあると思います。そのような環境ですが、我々のような教員だけではなく、中1の指導員を始めとした先輩達はそのハードルっていうのを乗り越えるための手助けを細やかにしてくれる。そのような部分を大切にして、ハードルをたくさん乗り越えた分だけ成長できるっていうところが、六甲の値打ちである様に思います。

——貴重なお話をありがとうございました。最後にこの広報誌を見るOBの方々にメッセージをお願いします。

石崎先生：海外研修だけでなく、様々な六甲の取り組みにOBの方々にご尽力いただき感謝申し上げます。「六甲未来つばさ募金」もよろしく申し上げます。我々も授業の中で現役生にOBの方々の紹介を行わせていただきます。

初代武宮校長の個性が六甲らしさを体現していた時代もあるでしょうし、かつては多くのドイツ出身の先生の影響もあり質実剛健という言葉で表現される雰囲気もありました。今の六甲はそのころに比べるとソフトに感じる所も多くあるかもしれません。ただ、生徒の自律心や先輩・後輩の絆、仲間と協力する姿勢など六甲らしさ・六甲精神と言われるものは変わりないと自負していますし、今後も守っていくべきものと考えています。

OBの方々には今後とも六甲学院や六甲生との交流の機会を持ち続けていただければ幸いです。是非よろしく願いいたします。
(文責 54期 徳久祐介)

※下記伯友会HPニューヨーク研修記事も是非ご覧ください。

六甲学院 第10回ニューヨーク研修報告記

2024年3月20日(水)～3月29日(金)

ニューヨーク研修に参加した現役生達の体験記を掲載していますので是非右記二次元コードにアクセスしていただきご覧ください。



OB 職場訪問

■東京研修

日 時：2025年3月10・11日（月・火）

訪問先：国土交通省（東京都千代田区）

東京大学本郷キャンパス（東京都文京区）

dip株式会社（東京都港区）

丸紅株式会社（東京都千代田区）

協力OB：足立基成さま（46期）、五百旗頭薫さま（49期）、

志立正嗣さま（43期）、福田大貴さま（71期）

引率教員：安達英二（体育科）、小幡龍之介（国語科）、

深尾孝道（数学科）、森本亮介（社会科）

引率生徒：39名



▲東京大学では、4人の先輩OBに囲まれました

当初8月下旬に計画されていた東京研修ですが、台風接近に伴い中止となりました。研修を心待ちにしていた84期たちの思いを汲み、OBのみなさまに再度、訪問のお伺いを立てたところ、快くお受け下さりました。改めて訪問先のみなさまに感謝申し上げます。

初日はまず、国土交通省を訪れました。すでにこの東京研修を立ち上げて3度目になりますが、今回もまた46期の足立さまが事前のお手配から実施までセッティングして下さいました。当日は58期OBの福嶋さまも駆けつけて下さり、ご準備いただいたスライドを元に、国交省のお仕事についてお話し下さいました。天候もよかったので、終了後は足立さまの誘導により、霞が関周辺をご案内いただく機会をいただきました。

続けて地下鉄に乗り、一路東京大学（本郷キャンパス）を目指しました。ちょうどこの日は同大学前期試験の可否発表とも重なっておりましたが、そのようなご多忙の折にも関わらず、大学正門のところまで五百旗頭さまが一同を出迎えて下さいました。また本校のニューヨーク研修においてもお世話になっている52期の佐野さまも特別に加わって下さりました。

中央食堂で昼食を採ったあと、全員で講義室に移動し、佐野さまと五百旗頭さまのご講話を拝聴しました。その際偶然にも、キャンパスを集団で行動していた六甲生たちを見つけ、80期の神田泰誠くん・鈴木律紡くんがわれわれにお声かけ下さりました。2人はちょうど84期が中学1年生

のときに、中1指導員としてご指導いただいた先輩にあたります。講義室では彼ら憧れの先輩方との交流が実現し、思いもよらない機会に恵まれました。

ホテルに到着後、自由行動を経て、夜にミーティングを行いました。その際に、安達先生のご紹介により、70期の喜多川依多さま（ANA）が、そして75期の山田祐育さま（一橋大学大学院在学中）が会議の冒頭に顔を出して下さい、生徒たちへ若いOB世代からの温かいメッセージを投げかけてくれました。

2日目の最初には、六本木のdip株式会社を訪問しました。こちらも3度目の訪問となりますが、今回は大変多忙なところ、到着後すぐに代表取締役COOの志立さまが直接ご登壇下さり、生徒時代における六甲の思い出を交えながら、後輩たちへのメッセージを投げかけていただきました。その後、事前に決めていた4名程度のグループに分かれて、社員のみなさまが社内をご案内下さり、職業に関するフリートークの時間を設けて下さりました。社員のみなさまが生き生きと仕事の遣り甲斐についてお話しされている内容を、熱心にメモを取っている生徒たちの姿が印象的でした。



▲丸紅では六甲OB3名によるご講演のあと、記念撮影をしました

東京研修の最後に、丸紅株式会社を訪問しました。最初に「商社とは何か」についてのご紹介に始まり、その後社内見学を経て、OBのみなさまによるフリートークの時間を汲んで下さりました。52期の宇佐美さま、62期の神澤さま、71期の福田さまらが登壇され、六甲時代の思い出・仕事に関するさまざまなことを、ユーモアを交え生徒たちに語って下さりました。

今回の東京訪問は、これまで実施した3回の中でも、最もたくさんのOBのみなさまと交流ができる機会になりました。上は40期代から下は80期代まで、世代を超えて六甲のネットワークが広がっていることを、肌身に感じた2日間でした。今回参加した生徒たちの中から、数年後に後輩となる六甲生たちを迎える側として参加してくれることを、強く期待しています。

（文責 六甲学院 進路指導主任 森本亮介）

※詳しくは右記伯友会ホームページでの掲載記事
をご覧下さい。（神戸・大阪の職場訪問も掲載）





OB講演会

OB講演会

絶えざる好奇心と勇気を！

上野 真吾氏 (35期)

六甲学院第20回OB講演会は、7月15日（火）、上野真吾氏（35期）を講師にお迎えして行われました。当日はあいにくの猛暑。講堂の暑さを避けて、高校3年生のみ合併教室で対面の講演とし、下級生は教室で配信を視聴するという変則的な形態となりました。

上野氏は住友商事代表取締役社長、従業員数8万人、事業所数120超、関連会社300社以上、年間利益5000億円超のグローバル企業のトップを務めています。そのポジションについて上野氏は、何らかのリーダーにはなりたと思っていたが、総合商社の社長になるとは思ってもみなかったと語り、六甲生のおよそ6割が将来の方向性を考えているという事前アンケートの結果に、「良いこと」とコメント。商社に入った理由を問われ、「海外で大きな仕事をしたいと考えていたからです。少し幼稚かもしれませんが」と返しました。飾らない、率直な人柄を感じさせるやりとりでした。

「変化の激しい現代におけるキャリア形成について、中高生とともに考える」というのが、この講演会テーマですが、まさに上野氏のキャリア自体、テーマに則したものでいえます。上野氏の人生グラフ（人生の各段階での浮き沈みをグラフ化したもの）には、3箇所くらい落ち込んだところがあります。最初の落ち込みは大学受験、2度目は就職活動のときで、3度目は住友商事入社30年後のことでした。3度目のときに一体何があったのでしょうか。

上野氏は一貫して資材（鋼管）のトレードを行う部署に所属し、テヘラン、ロンドン、ヒューストンなどの海外勤務を経験しながら、順調なキャリアを積んでいきました（北米総支配人を務めておられたときには、六甲学院ニューヨーク研修の一行がたいへんお世話になりました）。

そんな上野氏に大きな転機が訪れます。アメリカの上野



氏のもとを上司が訪れ、配置転換を打診したのです。転換先はこれまでの業務とはおよそ畑違いのエネルギー分野。気候変動危機に対応する、再生可能エネルギー部門も含まれていました。それが入社から30年目だったのです。考えた末、上野氏は配置転換を受け入れることにしました。

ある生徒からの質問です。「業務分野の転換には勇気が必要だったのではないですか。不安もあったでしょう？」上野氏の答えは、「たしかに不安はあった。専門知識を持ち合わせない分野だし、スタッフをまとめるのが難しい部署だ」という評判も聞いていた。それでも配置転換に応じたのは、（資材一筋の）これまでの仕事の幅が狭いと感じていたから。それを広げたかった。またわざわざアメリカまで来てくれた上司の期待にも応えたいと思ったこともあるでしょう」というものでした。「この決断をしていなければ、住友商事の社長になることはなかったでしょう」とも。

上野氏から六甲生へのメッセージは、変化の激しい時代には予期せぬ出来事が起こる。それをチャンスとしてつかみ取る力を養ってほしい。そのためには常にさまざまな事柄に興味・関心をもってほしいし、「変化」を「進化」と考えるマインドを大切にしてほしい、というものでした。そして六甲生はこのメッセージをしっかり受け取っていたように感じられました。期待を上回る濃密な1時間でした。

最後になりましたが、ご多忙なスケジュールの合間を縫って母校までお越しくださった上野氏と、講演実現のためにご尽力くださったMiraiSchool（住友商事の社員が教育現場を訪れ、キャリア学習を提供するプロジェクト）事務局スタッフの皆様に、厚く御礼申し上げます。

（文責 六甲学院教諭 40期 山岸禎一）



OB講演会

世界の医療現場で感じていること

森川 雅浩氏 (36期)



2024年12月6日(金)放課後、36期森川雅浩先輩(在米・ヴァージニア大学・医師)が来校され、約2時間、22名の生徒に向けてお話しくださしました。

今回の企画は、先輩からのご連絡で実現した企画です。先輩は卒業後、六甲学院とは長く離れて生活してこられたそうですが(学校に来られたのも卒業以来45年以上ぶりとのことで、武宮先生の石碑を感慨深く眺めておられました)、ふとしたきっかけで六甲伯友会(OB会)の公式ウェブページにアクセスされ、現役の六甲生が毎年3月にNYを訪問していることを見つけられ、何か後輩たちの役に立てれば、ということで伯友会事務局経由で学校にご連絡頂き、どういう形で実施するかなど相談しながら実現しました。

まず最初に、「今日は後輩の皆さんにどうしても伝えたいことがあって、こうして一時帰国の際に母校に帰ってきました」というお話から始まり、先輩ご自身で直接見聞きしてこられたアフリカやアジアの厳しい現実の中で感じたことや考えたこと、世界の医療の実情などを、スライドを交えながら熱心にお話しくださしました。

お話しのあとは参加者からの質問に丁寧にお答えくださいました。

盛り沢山の内容でしたが、私が一番印象に残ったのは「この世に失敗などなく、それができなかったという事実が残るだけで、そこからどうやっていくかが大事だ」ということでした。医学生時代に難民キャンプで直接ご覧になられた厳しい現実の中で、自分に何が出来るか、何をすべきかを問い続け、60代後半になられても第一線で活躍なさるお姿に、参加者全員が強い感銘を受けました。

期末考査直前のタイミングでしたが、参加を希望した生徒たちにはとても有意義な時間になりました。

(文責 六甲学院教諭 48期 石崎裕二)



メディア

● 六甲学院 TV放送・YouTube ●

六甲学院公式YOUTUBE
体育祭「綺(あやぎぬ)」



TBS『THE TIME,』2025/6/24
全国!中高生ニュース
全校生徒千人で図柄を描き続ける「総行進」



MBS『よんちゃんTV』2025/6/2
「ミルクボーイのおかんの代わりに学校に行ってみました」



高橋金属 株式会社

代表取締役 高橋伸治 (28期)
(親不知の会 No.1)

頑張ろう六甲 OB

渡部賢一 (28期)
(親不知の会 No.2)

山本香料 株式会社

代表取締役社長 山本芳邦 (体操部・28期)
(親不知の会 No.3)

株式会社 カーニバル

代表取締役社長 平田昌義 (28期)
(親不知の会 No.5)



各期の同期会の報告をお待ちしております。その際、なるべく楽しい写真を添えていただければ幸いです。開催日及び場所を記載していただく以外は、特に字数制限はありません。また「伯友」は春と秋号2回発行しておりますが、「同期会だより」は原則秋号のみ掲載します。場合によっては開催日と掲載が1年以上隔たる場合も生じますが、ご了承ください。

ホームページの伯友会オフィシャルサイトには寄せられた報告の全文を随時掲載いたしております。



● 13 期 ●

◆13期同期会

開催日：2024年11月18日（月）13：00～

場 所：神戸 第一楼

参加者：五百旗頭邦夫、井沢 靖、久島環六、河野定男、
塩野文三、清水宏計、角田嘉宏、瀧本重利、
田嶋 薫、友藤順義、中野良夫、樋上 實、
古市 守、三池 隆、村上則一、森田光一、
余田光男、園田香子様（井沢靖君御息女）

(18名)



ようやく秋らしい穏やかな日となった11月18日、昨年に続いて同期会を開催する機会を得ました。

今年はいつまでも収まらない酷暑に配慮して、ひと月遅らせての開催としましたが、この判断はまあまあ成功かと幹事一同は納得しています。

予期せぬコロナ禍の後、4年ぶりに開いた昨年の同期会には19名の出席を得ましたが本年もさして変わらぬ17名の級友達が集まってくれました。

今回も関東地区から三池君、森田君の両名が遠路はるばる参加してくれました。感謝しています。

又、幹事にとって特段の喜びであったのは、井沢靖君が

十数年ぶりに、会話も足腰も可成り不自由な身でありながら、ご息女の介助を得て車いすで元気に参加してくれた事でした。

ご家族の愛情とご配慮もさることながら、井沢君の前向きな心意気に感激、皆が彼をとり巻いて会は大いに盛り上がりました。

いつもは男子校OB会らしく無骨なおじさんばかりの会ですが、今回は紅一点を迎えて、華やかなそしてやや上品な会になり、なかなか結構でした。

昨年から、より高齢に向かう私たちの同期会では、この様な介助のご家族の方をまじえながら、にぎやかな、家庭的な同期会になって行けばと思い「バリアフリーの会場、介助御家族の参加歓迎」を案内状に書き加えましたが、向かう所は間違っていない様に感じました。

(文責 13期 中野良夫)

◆関東地区 13期 懇親会



開催日：2025年6月13日（金）13：30～

場 所：梅の花・銀座並木通り店

参加者：余田夫妻、中村、藤田、山下、三池、森田（7名）

梅雨の谷間の、快晴の一日でした。

今年度の恒例の懇親会には、昨年と同じく7名が参集さ



やまだ整形外科クリニック

〒651-0065 神戸市中央区割塚通7丁目2-1 コンフォート春日野2階

院長 山田 博 (32期)

TEL (078) 262-6780, FAX (078) 262-6786

高 端 歯 科

〒657-0065 神戸市灘区宮山町3-3-29 六甲ヒルコート102号

高端泰伸 (33期)

TEL (078) 871-6545

れ、賑やかな時間を過ごしました。

(文責 13期 森田光一)

● 14 期 ●

◆東京六中会



開催日：2024年10月30日（水）11：45～13：45

場 所：七代目卯兵衛東京駅北口二階店

参加者：五十嵐、上村、菊井、関根、中野、西澤、野島、松田、和田 (9名)

万年幹事の関根君と私が、体力が落ちたのと、ソーシャルディスタンスで問題のコロナのせいで、七年ぶりの東京での同期会となりました。5人と予想していた出席者は、9人になりました。

菊井君のように、日に一万歩歩ける人から、付添人の必要な人までいました。六甲での六年間の坂道の通学と、体操のお蔭で生きながらえて、9人も出席できたのだろうと皆は言いました。

一人だけ、医者でまだ土曜日のみ診察しているのは松田先生です。五十嵐君は、フットワークが良くて、遅れてきた人を改札口まで迎えに行ってくれました。

何とか歩けることの有難味が分かった同期会でした。幹事二人は、良く集まって嬉しかったけど、誠にしんどかったです。(文責 14期 中野潤一)

● 17 期 ●

◆「いつもの会」

開催日：2024年7月23日（火）11：30～14：00

場 所：第一楼

参加者：小川、菅、鈴木（一）、反橋、高田、平林、松井、森、福田 (9名)



梅雨明けの猛暑の中、昼間っからの「いつもの会」、参加するだけで充分意味ありと思います。三ノ宮駅からタクシーの輩も。

常連の岩津、瀬尾、井上（将）、浅井の諸氏は用有りて欠席。船城は療養中につき欠席。岡田は次回の忘年会には連れてくるとか？ 天草の徳永は元気、同じ天草の松永も元気、何か出版したとか？

今回はとうとう10人を切ってしまった。

後は大きな変化は無かったけど、飲食代金は30%以上も値上がり。これも今流とあきらめる。

では次回は11月末辺りで少々早い忘年会。

場所を変えてより便利で安い場所？

元気にお会いしましょう。(文責 17期 福田信三)

◆「いつもの会」



開催日：2024年11月26日（火）11：30～

場 所：三宮 明賢荘

参加者：井上、岡田、小川、鈴木、瀬尾、反橋、高田、南谷、平林、福田 (10名)

予定通り開催出来ました。

常連の松井さん、菅さんの顔が見えないのはやっぱ物足りない。

岡田さんはお嬢さんが会場まで同行、2時間後閉会時に

足立優歯科・神戸デンタルドックセンター

〒658-0072 神戸市東灘区岡本1-3-33

院長 足立 優 (36期)

TEL (078) 411-0024, FAX (078) 411-0056

URL: <https://www.adachi-dental.jp> E-mail: info@adachi-dental.jp

神戸駅前法律事務所

〒650-0027 神戸市中央区中町通2丁目2番17号 武田ビル5階

弁護士 佐藤功行 (41期)

TEL (078) 381-7612, FAX (078) 381-7591

E-mail: yoshixbb@gmail.com

はお迎え、皆さん、特別なことは話さないんだけど結構しゃべっていました。

これでいいんでしょう、会えばいろいろ話がある、良いですねえ。

ここの中華の味はしっかり目で美味しかった。

最後のチャーハンはなかなか、また来よう、てな感じ。

菅さん、海鮮、イカとか、海老とか鯛とかあったよ。

最後に、12月に忘年会をしたいとの意見あり、いかがですか？

岡田のお嬢さん、香織さんが集合写真を撮ってくれました。
(文責 17期 福田信三)

◆「いつもの会」

開催日：2025年3月25日(火)

場 所：點心茶室(国際会館 9F)

参加者：浅井、小川、反橋、高田、南谷、平林、森、福田
(8名)

2025年最初の同期会 参加者はとうとう10名を切ってしました。

常連の菅、松井の欠席はやはり物足りない。欠席利用が“あっちが悪い、こっちが悪い、検査、入院など”で、80歳も超えると当たり前かと仕方なく納得。参加者が5名以下なら開催しないとの提案有り。

久しぶり参加の浅井君が“最近まで毎年伯友会 上高地に行った”との話から旅行の話で盛り上がった。次回は7月開催だけど何人参加できるやら？(文責 17期 福田信三)

● 34 期 ●

◆34期同期会

開催日：2025年3月15日(土) 15:00～

場 所：新大阪ワシントンホテル

参加者：岩井直行先生、(Z) 井関泰文、伊井康高、
乾全喜、(Z) 上田博之、大加戸彰彦、大畠康平、
加藤賛、加藤博、鴨志田泰、斉藤彰、佐々木裕、



佐藤俊介、(Z) 城江信彦、正伝二生、高田明、
鶴田博己、徳尾野信哉、中村俊一、野田良、
吉村良一、畑辺真一、(Z) 長谷部斉、原田英一、
藤岡英明、松浦豪、安光立也、山村方人、
山本隆夫、和田隆、林豊 (Z) はZoom参加
(31名)

鶴田キャプテンを中心に2012年からコロナの時期を除き毎年行われている34期の同期会を、司会大畠さん、運営藤岡さんにより開催しました。ご健勝である岩井先生の乾杯で開幕、全員から本人並びに、不参加の同期の近況をお話し頂きました。1977年に六甲を卒業した186名の仲間は、既に13名が鬼籍に入られています。

リアルメンバーは、そのままの勢いで2次会に突入し、和気藹々の懇親を図りました。

次回は、来年2026年3月14日(土)、今回同様15:00～、新大阪ワシントンホテル、翌日ゴルフコンペの予定です。34期の皆さま、お誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。

翌日は、以下の10名でゴルフコンペが行われました。
ゴルフコンペ

日 時：2025年3月16日(日)

場 所：宝塚ゴルフ倶楽部

参加者：伊井康高、大畠康平、加藤賛、佐々木裕、野田良、
原田英一、松浦豪、矢島悟、山村方人
(文責 34期 林 豊)



〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-10-1

代表取締役 中内 仁(42期)

TEL(078)302-1111, URL. <https://www.portopia.co.jp/>

森一産業株式会社

〒550-0012 大阪市西区立売堀5-4-40

代表取締役 渡辺喜弘(44期)

TEL(06)6541-2271, FAX(06)6541-2302

行政書士鈴木聡事務所

代表行政書士 鈴木 聡(48期)

TEL 080-9753-1753

E-mail: suzuki304gyo@yahoo.co.jp

非鉄金属 ワイメタル株式会社

〒675-1122 兵庫県加古郡稲美町中村1216

横山央祐(49期)

横山洋介(55期)

TEL(079)492-7314, FAX(079)492-6599



クラブ O B 会



■第 8 回体操部OB会報告



日 時：2024年10月12日（土）17：30～19：30

場 所：香港海鮮料理 椰林（ヤーリン）

参加者：野見山元伸（11）、角田嘉宏（13）、
満野（村上）光（14）、高橋庸一郎（18）夫妻、
慶野雅彦（19）、角田正治（21）、木村勝彦（23）、
小野誠（25）、中村奉修（26）、
山下（小林）泰三（26）、濱田謙三郎（26）、
濱田誠剛（27）、姫野靖彦（28）、山本芳邦（28）、
浅香晃一（29）、築森元（32）、植賀成昭（33）
(18名)

新型コロナが5類に移行し集会の自粛も無くなり、ようやく第8回体操部OB会を開くことができました。今回の会場は阪急御影駅北東の御影ガーデンシティ2階にある香港海鮮料理の「椰林（ヤーリン）」で、18名が集い大いに盛り上がりました。なお、この素晴らしい会場はいつもグルメ指南をして頂く13期角田嘉宏氏から教えて頂きました。ありがとうございました。

今回は、11期から33期まで幅広い年代の方々が集い、六甲生時代の体操部の思い出話から現在のご活躍まで盛り沢山の様々な話題で、楽しい時間を過ごしました。

初参加で大先輩11期の野見山氏からは「脳内革命」のお話がありましたが、いつまでも学び続ける姿に感じ入りました。14期満野（村上）氏は86歳の現在も一級建築士として現役でご活躍とのこと、氏のバイタリティーに一同驚かされました。

25期小野氏から六甲体操部の歌をご案内頂きましたので、食事の合間に皆で視聴しました。懐かしい写真付きの動画です。 <https://youtu.be/q6F1jpaMCrw>

また、今回は32期築森氏・33期植賀氏の若手2名の初参加もあり、「楽しかった」との感想を聞き、幹事はホッと一息（笑）

また集う日まで、皆様、健康に留意されお元気にお過ごしください。

なお、体操部OB会報告は初回から全て伯友会ホームページ(<https://www.hakuyu.jp/>)の「投稿記事」にて閲覧できます。



（文責 第8回体操部OB会幹事 29期 浅香晃一、
rokkotaisobu@gmail.com）

■陸上競技部OB会報告2025



日 時：2025年1月2日（木）19：00～21：00

場 所：錦 三宮本店

参加者：六甲学院陸上競技部顧問 村上先生、
田嶋（15）、武井（16）、吉岡（16）、山本（31）、
長野（42）、古田（42）、松本（42）、深澤（50）、
白壁（63）、向畑（65）、小幡（75）、尾上（77）、
北島（79）
(14名)

陸上部OB新年会が2025年1月2日、錦 三宮本店にて開催され、15期から79期までの総勢14名が集まりました。OB会は幹事の乾杯の挨拶で始まり、その後参加者の自己紹介と近況報告が行われました。近況報告では、六甲生の活躍の場の広さが伺え、私自身も先輩方のお話を聞きながら、将来のことを考える良い機会となりました。村上先生に紙で配付していただいた記録集、陸上だよりをみて、現役の学生の活躍などを話に交えながら非常に楽しい会となりました。

最後は、幹事の一本締めで終わり、またの再会を誓いつつそれぞれの帰路に着きました。次回も忘年会か新年会いづれかの形でOB会を開こうと考えております。

（文責 79期 北島晴樹）

司法書士法人サンパートナーズ 神戸サン相続遺言相談所

〒650-0031 神戸市中央区東町116番地の2 オールドブライト4階

司法書士 渡邊三郎（49期）

TEL (078) 333-0088, FAX (078) 333-0038

E-mail: watanabe@westkobe.com

トピックス

■第9回伯歯会懇親会報告



開催日：2024年9月14日（土）18：00～

場 所：元町「東光」

参加者：岩間総一郎（17）、松本憲（24）、
 高端泰伸（33）、岩本浩（35）、
 花岡敬三（35）、栗飯原靖司（37、初、千葉県）、
 樽元昌彦（38）、延原哲行（38、初）、
 佐藤高弘（40）、
 武田大介（60、神戸大口腔外科）、
 釜口尚弘（61）、梅村剛（68、初）、
 浅井拓斗（75、初、阪大研修医）、
 永吉優真（76、長崎大5年）（14名）

来 賓：六甲学院校長 高橋純雄先生

2016年から8年振りに六甲学院卒業生の歯科医が集まる伯歯会懇親会を開催しました。初参加5名を含む、17期から76期とほぼ60年の幅広い年齢層の会員が集まりました。遠く千葉県からの参加もありました。来賓挨拶として校長から学校の現状と六甲学院未来基金についてお話をいただきました。その後、出席者全員の自己紹介を行い、会員同士の懇親を深めました。年長者は思い出話に花を咲かせたり、若い先生は先輩から将来について色々とお話をもらっていたようです。世代を超えた貴重な情報交換の場となりました。

次回は伯歯会との合同懇親会が予定されているので、ぜひとも多数の方のご参加をお待ちしています。

（文責 33期 高端泰伸）

■六甲学院29期

元海上保安庁長官 北村隆志氏

瑞宝重光章 受章

六甲学院卒業後、京都大学法学部から運輸省を経て海上保安庁長官に就任。

北村長官は、尖閣諸島の領海警備に意欲を示し、領有権を主張する中国や台湾の公船、漁船が尖閣諸島に侵入する事態に際し、船艇や航空機を全国から動員するなどの対応を取った。

2025年（令和7年）5月9日春の叙勲で瑞宝重光章を受章。

現在は、東京三軒茶屋カトリック教会の会計や海保関係財団法人の手伝いをする毎日です。

（文責 29期 藤井則雄）

■2025年度 第1回伯友会ジュニア報告



開催日：2025年6月26日（木）19：00～

場 所：三宮・意縁

参加者：青田（50）、東田（50）、山本（50）、久留島（51）、
 田崎（51）、前川（53）、高井（57）、荒木（66）、
 村上（72）（9名）

2025年度の第1回伯友会ジュニアを三宮で開催しました。9名の方が集まり、皆さんは話の引き出しを多くお持ちでしたので、話は尽きませんでした。

伯友会ジュニアは六甲OB若手の集まりを目的に定期的な懇親会を開催しています。自称ジュニアの諸先輩方から若手まで、ワイワイガヤガヤ、人生相談までできます（笑）

 **株式会社 MSC**

〒559-0031 大阪市住之江区南港東2-2-2
代表取締役社長 稲垣 潤（54期）

TEL (06) 6612-8700, FAX (06) 6612-8702
URL: <https://mscnet.jp/> E-mail: inagaki@mscnet.jp

 **六甲国際ゴルフ倶楽部**

〒651-1263 神戸市北区山田町西下字押部道15番地
取締役副社長 加藤 敏（62期）

六甲国際ゴルフ倶楽部 TEL (078) 581-2315 六甲国際パブリックコース TEL (078) 583-0351
URL: <http://rokkokokusai-kobe.jp/> E-mail: s.kato@rokkokokusai-kobe.jp

若い年代の方は格安の会費設定にしていますので、是非ご参加ください。

次回は2025年10月23日（木）に大阪で開催予定です。

FacebookとLINEに「伯友会ジュニア」がありますので是非参加ください。（LINEは右記の二次元コードからもアクセスいただけます）



（文責 51期 田崎朋広）

■「作曲家 本田周司プロジェクト（仮）」について

1 はじめに

作曲家 本田周司先生（以下「本田先生」と言う）の作品を蒐集・整理し、後世に向けて保存する「作曲家 本田周司プロジェクト（仮）」の立ち上げをお知らせします。

本田先生は、1955年（昭和30年）から1989年（平成元年）までの間、六甲学院中学・高等学校において音楽教諭として教鞭をとられました。この30数年間、六甲学院において唯一の音楽教諭であり、全学年の音楽の授業を担当されましたⁱ。

本田先生は音楽教諭であったのと同時に、作曲家でもありました。その作品は、生徒向けの唱歌、管弦楽、吹奏楽、ピアノ曲、合唱曲など多岐にわたっています。我々伯友会会員になじみが深いのは、《六甲学院讃歌》でしょう。現在においても在校生に歌い継がれています。

この《六甲学院讃歌》をはじめとして、「六甲歌集」に収録された歌の数々を作曲されたりⁱⁱ、音楽部のために吹奏楽作品を書かれたりするなど、自ら「教材」を提供されたほか、楽壇最高の登竜門として知られている「日本音楽コンクール」の作曲部門においても複数回受賞されていますⁱⁱⁱ。また、《交響曲 三つの像》は、総理府（現在の内閣府）主催の「21世紀の日本」において管弦楽部門総理府長官賞を受賞し、この曲は六甲学院創立30周年の記念演奏会において京都市交響楽団によって披露されました^{iv}。

また、本田先生は京都府福知山市の福知山成美高校（私立）の校歌の作曲者でもあり、同校が甲子園に出場し校歌が斉唱された際、作曲者として本田周司の名が映し出され、伯友会会員の間で話題になったことがありました。

これらの作品の中で圧巻とされるのは、日本二十六聖人殉教をモチーフにした「長崎への道」シリーズでしょう。中でも《交響的序曲 長崎への道》は第一番から第三番を擁し、それぞれ演奏時間が30～45分にわたる大曲になります。同第一番及び第二番はそれぞれ1983年（昭和58年）と1984年（昭和59年）の夏に当時の音楽部によって初演されました。特に同第二番は本田先生ご自身が「私の作品中白眉とも言えるべき力作であり、後世に残る傑作であるという自信があった」と述懐されており^v、初演の年の12月に当時の六甲学院講堂において再演されました。



2011年伯友会懇親会にて。
本田先生（左から二人目）と50期生メンバー。筆者は左端

同第三番は1987年（昭和62年）11月14日に六甲学院創立50周年記念式典において京都市交響楽団により初演演奏されました。現在の講堂の柿落としとなったものです。

また、本田先生ご退職後の1997年（平成9年）3月19日には京都コンサートホールにおいて日本二十六聖人殉教四百年記念演奏会が開催され、《交響的序曲 長崎への道 第三番》が再演されました。

しかし、筆者が調査した限り、この演奏会を最後に本田作品が公の場で演奏された記録がありません。

本田作品は楽曲としての壮大さ、美しさもさることながら、日本人がキリスト教的な主題を楽曲において表現することを試みたものという、現代音楽史上の意義を見出すことができます。同時に、本田作品は中高生にも親しめる間口の広さも兼ね備えています。すなわち、芸術としての価値が余すところなく詰め込まれています。

とはいえ、造形芸術と異なり、音楽は演奏されてこそその魅力に触れることができ、また後世に伝えられるという宿命を帯びています。最後の演奏から30年近くがたつ今、このままでは素晴らしい作品群が埋もれてしまうという危機感を抱かざるを得ません。

そこで、本田作品を収集・整理し、後世に記録として伝えるべくプロジェクトを立ち上げようという思いに至ったものです。

2 本田周司プロジェクトの活動について

とはいえ、プロジェクトとしては満足な活動は行えていないのが率直なところ。数名のOBにお声かけし、方向性についてご快諾をいただいたものの、何か成果を出したかという何ともなせていません。最大の理由は日々の忙しさにかまけているせいですが、忙しさを理由にしては何もできません。

25期久保憲一氏及び中谷仁美氏が、六甲歌集に載せられた曲を中心に、ボーカロイドに歌わせ、動画データとしてYouTubeにおいて公開されています。当時音楽部が体育祭で演奏するために、本田先生が提供された《オッコロマーチ》（ROKKOを反対から読んだもの）を楽譜演奏ソフ

トによって演奏した動画も同様に公開されています^{vi}。

また、一部先輩より情報提供をいただきましたが、数多の作品群のほんの一部にしかアプローチできていません。

今後なにより、楽譜そのものの蒐集、さらに望むらくは演奏例の蒐集が必要です。本田先生ご家族のご協力も必須でしょう。

楽曲の蒐集のうえでの整理・編集もさることながら、楽曲のさらなる分析のほか、巡礼という行為をいかに楽曲上に表現したかの考察、カトリック作曲家としての表現と日本的表現との融合など、研究テーマはいろいろと考えられます。

もし伯友会会員諸兄のなかに、何か本田先生及び本田作品に関する情報をお持ちであれば、どんな小さなことでも結構なので情報提供いただけると幸いに存じます。Wikipediaも開設しました。六甲が生んだ天才作曲家の偉業を後世に伝えるため、ご協力をお願いします。

50期 藤原唯人

連絡先 E-mail: tadato00@gmail.com

本稿は、上記内容のほか、本田周司先生の詳細なご経歴と作品解説も記載していたが、会報に載せる関係上、大幅に削除した。完全版は伯友会ホームページに記載しているため、そちらを参照されたい。

<https://www.hakuyu.jp/archives/4582/>



i 本田周司（2012年）『『六甲歌集』誕生秘話』『伯友』61号16ページ

なお、『伯友』57号（2010年）44ページにおいて、本田

先生の経歴紹介として「音楽担当教諭として六甲学院に1957年～1990年奉職」という記載があるが、こちらは誤りと思われる。

ii 六甲歌集は、六甲学院創立20周年記念（1957年時）に初版が発行。平成25年10月10日に復刻版が発行された。

iii 具体的には、いずれも作曲部門で、第23回（1954年）室内楽曲 入選、第25回（1956年）管弦楽 2 位、室内楽曲 入選、第26回（1957年）室内楽曲 2 位、第27回（1958年）室内楽曲 入選 作曲部門

毎日新聞社「日本音楽コンクール 入賞者一覧」

<https://oncon.mainichi-classic.net/winners/>

（令和 7 年 5 月 4 日閲覧）

iv 「三十周年記念式典」『六甲学院新聞』昭和43年 4 月28日号

v 本田周司（1987）「二十六聖人記念碑の建立」『六甲』第37号 57ページ

vi <https://www.youtube.com/@rok2557>

（文責 50期 藤原唯人）



六甲歌集 復刻版



六甲未来つばさ募金

皆様からご協力をいただいております「六甲未来つばさ募金」の3月から8月までの寄付金の合計額は、目標2,000万円に対して約700万円（在校生保護者等の卒業生以外も含む）となりました。

引き続きのご協力をお願い申し上げます。

六甲未来つばさ募金Webサイト

http://www.rokkogakuin.ed.jp/public_html/donation/



六甲未来つばさ募金事務局

〒657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町2丁目4番1号
学校法人上智学院 六甲学院中学校・高等学校 会計室内
TEL: (078) 871-4566

書籍紹介

ニュースタANDARD整形外科の臨床 全11巻 第1巻「整形外科の病態と診察・診断」

2024年11月に中山書店から「ニュースタANDARD整形外科の臨床 全11巻」の第1巻「整形外科の病態と診察・診断」が発刊されました。以後約4ヶ月毎に第2巻以降が発刊予定です。

整形外科医だけでなく、プライマリケアをされるすべての先生方にお役に立てると思います。

今回のシリーズは、整形外科の基礎から実際の診察法や保存的治療まで、各専門分野のエキスパートに臨床現場で役立つ知識をできるだけ具体的に解説してもらうようにしました。そのために、総編集者として東大整形外科田中栄教授と慶応大整形外科松本守雄教授とさらに開業医である私も選ばれています。

今回発売された第1巻は「整形外科の病態と診察・診断」というタイトルで、基礎、症状のある部位から想定される病態、診察法、整形外科の主な疾患について解説していただいています。できるだけ二次元コードで診察法の動画などが参考にできるようにしています。

2025年2月発刊予定の第2巻は「整形外科の外傷処置—捻挫、打撲、脱臼、骨折—」、その後に発刊予定の第3巻は「整形外科の保存的治療のすべて」で第1巻から第3巻までは私がすべての項目を決め各執筆者の原稿の校正とチェックを行っています。



<https://www.hakuyu.jp/archives/4374/>

整形外科医のカラダの痛み相談室

2024年10月に発刊された「整形外科医のカラダの痛み相談室」をご紹介します。6冊目の著書です。

皆さんは健康寿命という言葉をご存知でしょうか。世界保健機関（WHO）が発表した世界保健統計2023年度版では、日本人の平均寿命は84.3歳で世界第1位です（男性81.5歳で2位、女性86.9歳で1位）。

健康寿命というのは2000年にWHOが「心身ともに自立し、健康的に生活できる期間」と提唱しました。寝たきりではなく自立して生活できる寿命です。この健康寿命も日本は世界第1位です。しかし問題は平均寿命と健康寿命の差です。日本人男性の差は8.9年、女性は11.4年もあります。この不健康な期間は寝たきりに近い状態になり、本人も家族も大きな肉体的、精神的、経済的負担になります。

いかにこの平均寿命と健康寿命の差を縮めるか。長生きはしたい、けれど寝たきりはイヤ、とはだれもが願うことでしょう。この「寿命の質」が現在とても大事なことです。

フレイル（虚弱）予防とかロコモ（運動器症候群）予防など、皆さまの健康と寿命の質を高める試みも始まっています。

この本は2019年8月から2024年4月まで週刊実話で5年弱連載した痛みの悩み相談室の記事を改変しまとめた内容となっています。皆さまの寿命の質を高めることに少しでもお役に立てればと願っています。

<https://www.hakuyu.jp/archives/4367/>



(文責 32期 井尻慎一郎)

大頭真一（36期）[著] 新刊のお知らせ

わたしを誰と呼ぶか マルコの福音書Ⅱ



「同性愛」二つの見解



時が満ちて — マルコの福音書Ⅰ



<https://www.hakuyu.jp/archives/4570/> <https://www.hakuyu.jp/archives/4519/> <https://www.hakuyu.jp/archives/4377/>

編 集 後 記

■ 今号の「伯友」を手になされている頃には既に閉幕していますが、みなさま「大阪万博」は訪問されましたか。伯友会会員の中では、仕事で関わっておられる方や、お客として何度も訪問されている方など、沢山おられると思います。

私は、この原稿を書いている時点では未だですが、9月中に予約をしており、雰囲気だけでも感じて来ようと思っています。1970年の大阪万博は4歳で微かな記憶しかないため、今回が人生最後の万博。楽しんで来ます！

(42期 松下治正)

■ 今回は現役生として指導員たちに会うことができ、彼らの考えを聞くことが出来ました。

彼らは中1の新入生を育成しサポートするという役割を与えられて学校から任されているという立場にあり、4人それぞれ自分の考えを持って後進の育成に日々あたっています。彼らから「ある程度のことがわかってきたら、逆に中1の成長が無くなってしまうと思ったので、(中略)サポートをするようになりました」という言葉を聞き、会社の管理職の言葉そのものだなと思いました。こうした経験は彼らに学びや気づきを与えていて、将来リーダーになった時に役立つものだと感じます。便番や中間体操、体育祭での様々なポジションで組織を編成し組織で一つの目標に向かってまとめ上げること、個人としては強歩会や毎日のきつい坂道を駆け上がることで培う忍耐力など、六甲での日常が彼らの将来へ社会人としての成長を助けるプログラムがなされていて他者に貢献できる人間に当たり前のようになることが出来るのだと改めて感じました。

また「先生を訪ねて」ではNY研修やマレーシア・シンガポール研修、インド研修・カンボジア研修を経て世界へ視野を広げ、将来の可能性を広げる機会を用意してくれていることも感じました。

秋吉拓真君のインタビューではアスリートとして、社会人として日々戦っている姿を間近で見ることが出来、六甲での6年間の彼を作っていることを感じました。

今後も六甲の様々な側面からアプローチを続け、六甲の生の状態をリアルに皆様にお届けし、六甲を感じてもらえるよう、またみなさまの日常と照らし合わせて何かを感じてもらえるよう今後も発信していきたいと思いますので今後ともよろしくお願い致します。(50期 藤枝誠)

■ 少し前になりますが、栄光学園卒業生、広島学院卒業生、私の3人で同じプロジェクトに関わる機会がありました。3人とも年齢はバラバラですが、何となく考え方が似ていて、出身地の話をする流れで「もしかして…」と出身校の話になったと記憶しています。今は3校とも上智学院が運営しています。少子化が進んでおり、中高一貫校の経営環境も劇的に変化しているはずです。学校経営については門外漢ですが、伝統校故のメリットもあれば、伝統校故のデメリットもあることは容易に想像がつきます。広報委員会の活動を通じて接点を持った現役の六甲生達は、充実した学生生活を送っていて、自身の将来にも期待を持っているように見えました。彼らや未来の六甲生の為にも、良い伝統や価値観はしっかり継承し、それ以外の部分は果敢に変革して、時代に合った良い母校であり続けてほしいと思います。その為に何か自分に出来ることはないか、この編集後記を機に考えてみようと思います。

(53期 岸本吉史)

六甲伯友会総会・懇親会のご案内

2026年5月9日(土) 神戸ポートピアホテル

2026年度は
58期が幹事を
担当します



2025年度六甲伯友会懇親会

… 会員の皆様へ …

■会誌「伯友」秋号の発送について

六甲伯友会の会誌「伯友」の春号は会員全員に、秋号は会費納入者で秋号の送付を希望される方と、六甲学院を卒業後4年間に該当する方、全員に送付いたします。

広報委員会では、ホームページ等を通じて会員サービスの向上を諮っております。ご意見・ご質問・ご要望等ございましたら、伯友会事務局までご連絡ください。

WEB www.hakuyu.jp

X @rokko_hakuyu

■会費について

会員には会費の納入義務があります。会費は伯友会にとって重要な収入であり、伯友会運営にとって貴重な財源です。

657-0068

兵庫県神戸市灘区篠原北町1-8-25

伯友太郎 様
(00-00-00)
期 学年での番号 会費納入状況

あなたの会費が何年度分まで納められているかは宛名の右下に記載されています。もしあなたが終身会員であれば、会費納入状況は『終身』となっています。2025年度分まで納入済みの方は『2025』となっています。また、会費納入実績がない場合は記載がありません。

年会費：年会費は3,000円です。会費未納期間が3年以上ある場合は、2年前に遡り本年度分を含めて3年分納入いただきます。

終身会費：終身会費は45,000円です。既に半数以上の会員が終身会員になっています。終身会員になると年会費の納入の必要がなく、毎年会費を納入する煩わしさもなくなります。また、過去の未払いの年会費を遡って徴収することはありませんので、終身会員になられることをお勧めしています。なお、今年度以降の会費を納入済みの方にはその分を45,000円から差し引かせていただきます。

■伯友基金の廃止について

伯友基金は、六甲学院の教育活動と社会奉仕活動のための基金として1993年に設立されましたが、先般の伯友会総会での承認を経て、廃止することとなりました。32年の長きにわたりご協力いただきありがとうございました。

今後は、六甲学院が設立した「六甲未来つばさ募金」(33ページ参照)がこの趣旨を引き継ぐものとなります。こちらへのご協力をお願いします。

なお、次の「伯友奨学基金」は継続しますので、こちらへのご協力も引き続きお願いします。

■伯友奨学基金にご協力を

六甲学院からの要請を受け、「伯友奨学基金」を設立しました。昨今、学費に困窮する学生が増え、大学生の二人に一人が約300万円の負債を負って社会に出るのが日本の現状となっています。六甲学院も決して例外ではなく、奨学金を必要とする学生が年々増加しております。“家庭の経済的理由で六甲学院を去らねばならない後輩をひとりも出したくない”という思いで設立された奨学基金です。

伯友会からの奨学金として、年間約50万円の授業料相当分を一人もしくは二人に給付していくことを目標としており、これからも継続的な積み立てが必要です。引き続き基金へのご協力をよろしくお願いいたします。

*ご入金の際には必ず期・氏名をメール又はFAXで事務局までお知らせください。

*寄付者のお名前は会誌の春号に掲載されます。匿名希望の方は併せてお知らせください。

ご寄付いただいた額の領収書を発行することは可能ですが、六甲伯友会は学校法人ではないため寄付金控除の対象になっておりません。ご了承ください。領収書が必要な場合は事務局までご連絡ください。

■伯友会事務局からのお知らせ

伯友会事務局執務時間は年末年始とお盆の頃を除いて原則的に月・水・金曜日のP.M. 1:00~P.M. 5:00迄です。ご用件の内容によっては、即答出来ない場合もありますが、必ず調べた上お答えいたしますので、ご遠慮なくご連絡ください。

伯友会会費の納入は

- 三井住友銀行六甲支店 (421)
□座番号 (普通) 1103520 □座名 六甲伯友会
- 郵便振替
□座番号 01110-8-73016 □座名 六甲伯友会

伯友奨学基金への振込は

- 三井住友銀行六甲支店 (421)
□座番号 (普通) 4513835 □座名 六甲伯友会奨学金

伯友87号

発行日 2025年10月31日
発行人 藤本久俊
編集・構成 広報委員会
印刷 福田印刷工業株式会社

伯友会事務局

〒657-0068
神戸市灘区篠原北町1丁目8番25号
六甲学院生徒研修所内
TEL. 078-861-6588 FAX. 078-861-6573
E-mail : office@hakuyu.jp
ホームページ : www.hakuyu.jp



伯友

No.87
2025.10

■発行人 藤本久俊 ■編集・構成 広報委員会

伯友会事務局

〒657-0068 神戸市灘区篠原北町1丁目8番25号
六甲学院生徒研修所内
TEL 078-861-6588 FAX 078-861-6573
Eメール office@hakuyu.jp
ホームページ www.hakuyu.jp